

山梨県笛吹市

清水遺跡

携帯電話アンテナ基地局建設事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

2009

笛吹市教育委員会

KDDI(株) 東京エンジニアリングセンター

(株) 熊谷組 首都圏支店

(財) 山梨文化財研究所

序

笛吹市には、縄文時代前期末から中期末にかけて、華やかな立体装飾を持つ土器と、豊かな表情を持つ土偶に代表される文化が栄え、これまでにも花鳥山遺跡、銚子原遺跡、釧迦堂遺跡、桂野遺跡、一の沢遺跡など全国に誇るべき集落遺跡が調査、報告されてきました。また、釧迦堂遺跡、一の沢遺跡の出土品は、国の重要文化財に指定され、博物館において広く公開されております。

さて、市内には、これら縄文時代の拠点集落というべき遺跡のほかにも、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良平安時代を通して数多くの遺跡があり、これら遺跡群と数多くの文化財を活用し、「甲斐国千年の都 笛吹市」として、広く県内外に情報発信しております。

今回、報告させていただきます清水遺跡は、先に紹介した市内の縄文時代集落遺跡のような背後に山を背負う立地とは異なり、京戸川により形成された段丘肩に展開しています。周辺における過去の発掘調査の事例でも、古墳時代を中心とした古代の集落遺跡が中心に確認されていました。その中で、縄文時代を中心とした住居跡群が高密度で確認されたことは、今後の笛吹市内における縄文時代遺跡の分布と展開を探るうえで、大きな一助となると思われます。

最後に、発掘調査をご理解、ご協力いただきましたKDDI株式会社、株式会社富士通ビジネスシステム、地権者各位をはじめとする関係各位、ならびに調査を担当いただいた財団法人山梨文化財研究所に感謝申し上げますとともに、本調査報告書が広く活用されますことをご期待申し上げます。

笛吹市教育委員会
教育長 山田武人

例　　言

- 本書は山梨県笛吹市一宮町本都塚字清水186に所在する清水遺跡の発掘調査報告書である。
- 本調査はKDDI株式会社の携帯電話アンテナ基地局建設事業に伴い、笛吹市教育委員会より委託を受けて(財)山梨文化財研究所が実施した。
- 本書の原稿執筆・編集は、望月秀和が行った。
- 発掘調査における基準点測量、ポール写真撮影、全体図作成業務を㈱テクノプランニングに委託した。
- 本書に関わる出土品、記録類は笛吹市教育委員会で保管する予定である。
- 発掘調査から報告書作成に至るまで、以下の諸氏、諸機関からご教示、ご配慮を賜った。記して感謝申し上げたい。(順不同、敬称略)。

秋山圭子 河西 学 柳原功一 保坂康夫
網倉邦生 野崎 遼 鷹野義朗

凡　　例

- 本書におけるX・Y座標は、平面直角座標第8系(原点:北緯36度00分00秒)、東経(138度30分00秒)に基づく座標数値である(世界測地系数値)。各遺構平面図中の北を示す方位はすべて座標北である。
- 遺構および遺物の縮尺は次のとおりである。

遺構	: 1/60	1/30
土器	: 1/3	1/4
石器	: 1/4	(石器はか小型品は原寸大)
- 遺構図版中の遺物点間をつなぐ線は接合した2点の接合関係を示す。本報告で出土地点を示したドットの番号は、図化番号と同一番号を付している。
- 土器断面図中の破線は接合帶を示す。
- 上層説明における土色表示は農林水産省水産技術会議事務局監修『新版 標準上色帖』(2006年度版)を使用した。
- 遺構図版中の遺物番号は写真図版番号、遺物観察表番号と一致している。
- 本書第1図は国土地理院発行1/200,000『甲府』、第2図は一宮町都市計画基本図5 1:2,500 土地基本図を使用した。
- 本文の註・参考文献については各節(章)ごと文末にまとめた。なお、本書で引用した用語は、引用元のまま掲載した。

目　　次

本文目次

例言	
本文目次	
図版目次	
表目次	
写真図版目次	
第1章 調査の経緯	1
第2章 遺跡の位置と歴史的環境	
第1節 遺跡の位置と地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の方法と成果	3
第1節 調査の方法	3
第2節 層序について	5
第4章 発見した遺構と遺物	5
第1節 穴穴住居跡	5
第2節 ピット	6
第3節 上坑	10
第5章 総括	28
第1節 遺物について	28
第2節 遺構の年代について	30
おわりに	30
報告書抄録・奥付	

図版目次

第1図	遺跡の位置	1	第22図	遺物(9)	26
第2図	周辺図	2	第23図	土製品(1)	27
第3図	調査区位置およびグリッド配置	3	第24図	上製品(2)、古墳時代遺物	28
第4図	調査区全図	4	第25図	時期・文様構成別 土器出土状況	29
第5図	基本層序	5			
第6図	遺構全体図、1号住 炉	7	表1	ピット一覧	6
第7図	遺物分布全図	8	表2	石器観察表	12
第8図	1・2号住 出土遺物	9	表3	土器観察表	15
第9図	3・4号住、ピット 出土遺物	10	表4	土製品観察表	17
第10図	上坑	11			
第11図	礫・一括遺物出土状況 および石器出土位置	12			
第12図	石製品(1)	13	図版1	遺構(1)	
第13図	石製品(2)	14	図版2	遺構(2)	
第14図	遺物(1)	18	図版3	遺物(1)	
第15図	遺物(2)	19	図版4	遺物(2)	
第16図	遺物(3)	20	図版5	遺物(3)	
第17図	遺物(4)	21	図版6	遺物(4)	
第18図	遺物(5)	22	図版7	遺物(5)	
第19図	遺物(6)	23			
第20図	遺物(7)	24			
第21図	遺物(8)	25			

写真図版目次

第1章 調査の経緯

本調査は、山梨県笛吹市一宮町本都塚字清水地内におけるKDDI株式会社の携帯電話アンテナ基地局の建設に伴って実施した。平成20年5月20日、事業主体者であるKDDI株式会社東京エンジニアリング（以下、KDDI）により、当該地の埋蔵文化財の有無についての照会が行われ、建設対象地が周知の埋蔵文化財包蔵地である「清水遺跡」内に位置することが判明した。

平成20年6月24・25日に市教育委員会が試掘調査を実施し、現状面より約70cmの深さで織文土器片・黒曜石・土師器片の出土が確認された。試掘調査の結果として、アンテナ建設部については、現状より約5.6mの深さまでの掘削されるため、遺跡の現状を保護する措置がとれないことから、開発実施には本格調査による記録保存が必要と判断された。KDDIの開発実施の決定に伴い、本格調査への移行が確定となり、笛吹市教育委員会・財團法人山梨文化財研究所との三者間で調査及び調査終了後の整理作業・報告書作成業務委託に関する協定が締結された。

本格調査は平成20年8月18日から平成20年9月4日、

財團法人山梨文化財研究所が実施し、縄文時代前期・中期を主とした住居跡4軒、土坑4基、ピット65基を確認し、縄文土器・土師器・土製品・石器などプラスチック箱10箱分の遺物を検出した。整理作業・報告書作成業務は、発掘終了後の平成20・21年度に実施し、平成21年3月に本書刊行に至った。

〈調査体制〉

笛吹市教育長 山田武人

笛吹市教育委員会文化財課 課長 中山孝仁

笛吹市教育委員会文化財課 担当 望月和幸

調査機関 財團法人 山梨文化財研究所

山梨文化財研究所 所長 萩原三雄

発掘調査担当 入江 俊行（山梨文化財研究所調査員）

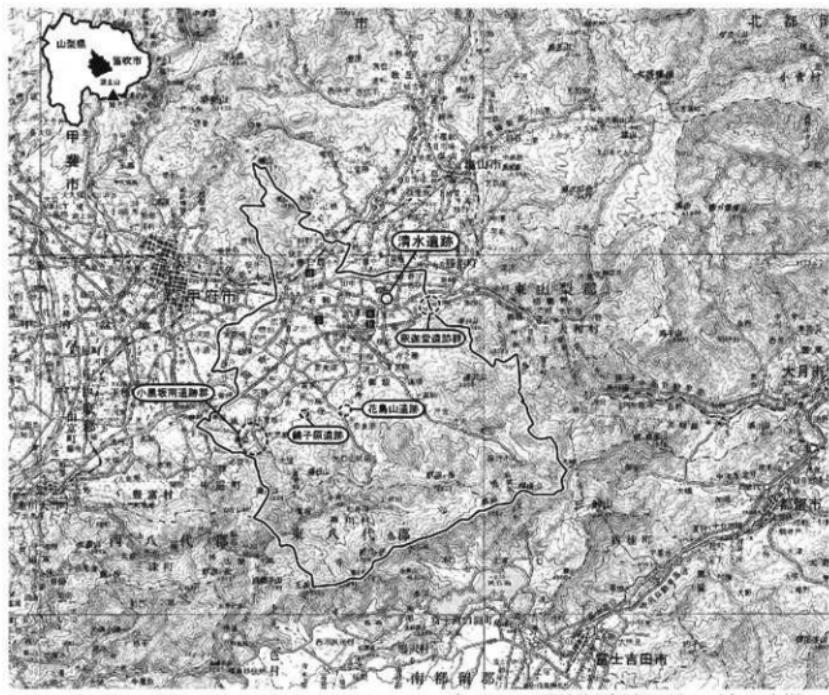
整理作業担当 望月 秀和（山梨文化財研究所調査員）

調査作業員 岩崎 誠至 早川 栄蔵 深澤 友子

山井 悅雄

整理作業員 小沢恵津子 小林 祐子 斎藤 ひろみ

須田 泰美 田中 真紀美 古郡 明



第1図 遺跡の位置

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

清水遺跡は、甲府盆地東端部に位置する、笛吹市一宮町本都塚字清水に所在する。一帯は盆地縁辺の山地帯から流れる複数の河川によって複雑に形成された、複合扇状地帯の扇尖～扇端部にあたる。調査区は一宮中学校グラウンドの北約60m、御手洗川の左岸に位置する。御手洗川のはじまりにあたる京戸川・大石川の現合流地点からは約800m、御手洗川と田垂川の合流地点からは約280mあり、標高は約335mを測る。河川流域であることによれば、周辺調査では複数条の河川堆積層が確認されており、洪水や流路変移によって複雑に形成されてきた土地であることが窺える。現在は河岸段丘状の地形を呈しており、御手洗川流路までの標高差は約5mを測る。調査前は果樹栽培を主とした畑地であり、北傾斜する御手洗川河岸面を盛土または切土によって平坦化されていった。

第2節 歴史的環境

笛吹市は、駿迎堂遺跡群や甲斐国分寺跡・国分尼寺跡をはじめ、原始から中世まで741の遺跡があり、遺構・遺物が濃密に分布する県内有数の埋蔵文化財包蔵地として周知されている。駿迎堂遺跡群は、笛吹市（旧東八代郡一宮町）と甲州市（旧東八代郡勝沼町）にまたがる京

戸川扇状地上に位置する。中央自動車道建設に伴い実施された調査では、坂越北A・坂越北B・駿迎堂・三口神平・野原地区で縄文早期から平安期にかけての遺構・遺物が発見され、1116個の土偶が出土したことでも注目を集めめた。調査区周辺における縄文時代の集落分布については、同遺跡群が扇状地の扇頂部に近い山裾部にあたる一宮町東端部から勝沼町にかけて広がるほか、扇状地扇央部にあたる甲斐国分寺周辺や北堀遺跡、晚期には豆塚遺跡において確認されている。国分寺跡周辺については遺構確認はされていないものの、縄文時代中期の土器や土偶が多数出土しており、古代の遺構もしくは同面に大規模な集落が存在する可能性も考えられる。

縄文時代前期の集落遺構例をあげると、市内では駿迎堂遺跡群・御坂町・花鳥山遺跡・境川町・小黒坂南遺跡群が知られている。駿迎堂遺跡群では、下も吉井式期併行の駿迎堂Z2式～諸磲b式期までの堅穴住居30軒が検出されており、諸磲塚越北A(S-I)地区で黒浜式期11軒、諸磲a式期3軒、諸磲b式期5軒が検出されている。花鳥山遺跡では諸磲b～c式期に位置づけられる住居址24軒、土壙33基と遺物包含層が確認されている。寺平・亀の子A・机・砂原山の4遺跡から構成される小黒坂南遺跡群の調査報告では、寺平遺跡で諸磲b期



第2図 周辺図

4軒、十三菩提式1軒の5軒住居址と行する土坑11基、集石2基が検出されている。近年では八代町銚子原遺跡の調査例があり、黒浜式併行とされる釈迦堂Z3期4軒、諸磯a式期2軒、諸磯b式期2軒、諸磯c式期2軒、十三菩提式期4軒が検出されている。また、山梨県内初の大型住居跡が検出されており、ピット配列から2度の立て替えにより徐々に大型化し、3基の埋甕戸から十三菩提式の最週末へ御領ヶ台I式期までの変遷を報告している。その他、県内では北杜市(旧北巨摩郡大泉村)天神遺跡で諸磯b式期4軒、諸磯c式期7軒が検出されている。左記にあげた市域内に立地する遺跡は、いずれも曾根丘陵上の標高400~420mに位置しており、本調査地点とはおよそ50mほど標高差がある。扇状地頭端部に近く、河川流域に立地する本地点の調査により、集落変遷を検討する上でも希少な資料を得ることができたといえよう。周辺の調査状況は第2図に示したとおりである。このうち、御手洗川沿いで実施した今宮・車居遺跡(第2図J・K・L)の発掘調査では、弥生時代~奈

良平安時代までの遺構遺物とともに、黒曜石製の石礎1点と、溝（SD3）から諸磥期の縄文施した土器片2点が報告されている。なお、隣接する鞍掛遺跡の発掘調査では、200軒を超える集落遺構が発見されており、古墳時代～平安時代にかけて濃密な遺構分布が明らかとなっている。本調査では、縄文中期包含層の上層から古代の遺物が出土していることから、周辺でも同様に縄文時代の遺構が埋没している可能性があり、今後の調査においては十分検討していく必要があると考えられる。

引用文献

佐々木謙蔵 1986 「『新嘉州南浦宿』 岐阜県文化財調査報告書第3集 駿河川沿岸委員会
小石正義 1986 「駿河川」 山形県雄勝大和センターゼンケイ報告書第17集 山形県沿岸委員会
小石正義 1986 「駿河川」 山形県雄勝大和センターゼンケイ報告書第21集 山形県沿岸委員会
長良川益三 1987 「駿河川」 山形県雄勝大和センターゼンケイ報告書第22集 山形県沿岸委員会
長良川益三 1987 「花巻山道」 花巻市水道部「山形県雄勝大和センターゼンケイ報告書第45集
山形県沿岸委員会

新藤洋、米原洋 1994 「新潟の『赤道』」 山形県彌彌文化財センター調査報告書第97集
山形県彌彌文化財センター

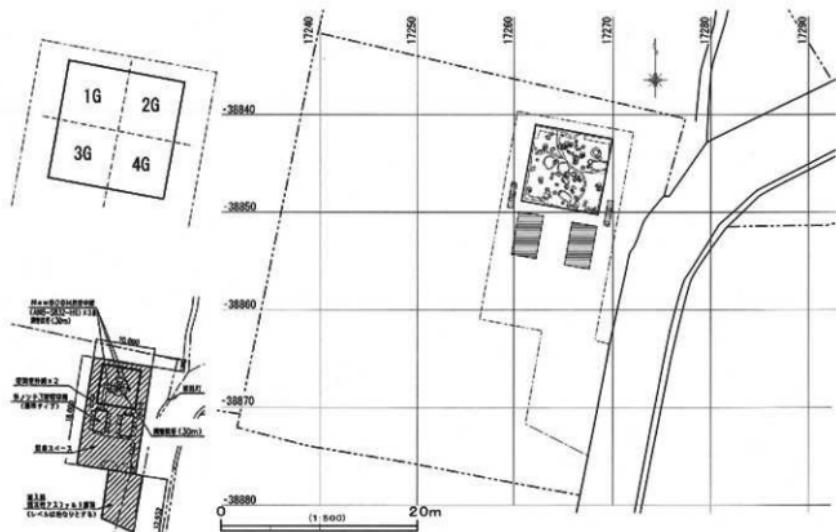
山形県 1999 「山形歴史」 史跡・古墳・考古学 古代・古代II 玄宮(追跡) 山形県史蹟さんくみ委員会
山形県 1999 「山形歴史」 史跡調査2 阿賀・吉田・庄内 (温泉・道場) 山形県史蹟さんくみ委員会
山形県 2005 「新潟の『赤道』」 山形県文化財調査報告書第1集 山形県沿岸委員会
野坂豊、井原伸 2007 「新潟の『赤道』、山形の『温泉』」 岐阜市文化財調査報告書第6集
野坂豊、井原伸 2007 「新潟の『赤道』、山形の『温泉』」 岐阜市文化財調査報告書第6集

第3章 調査の方法と成果

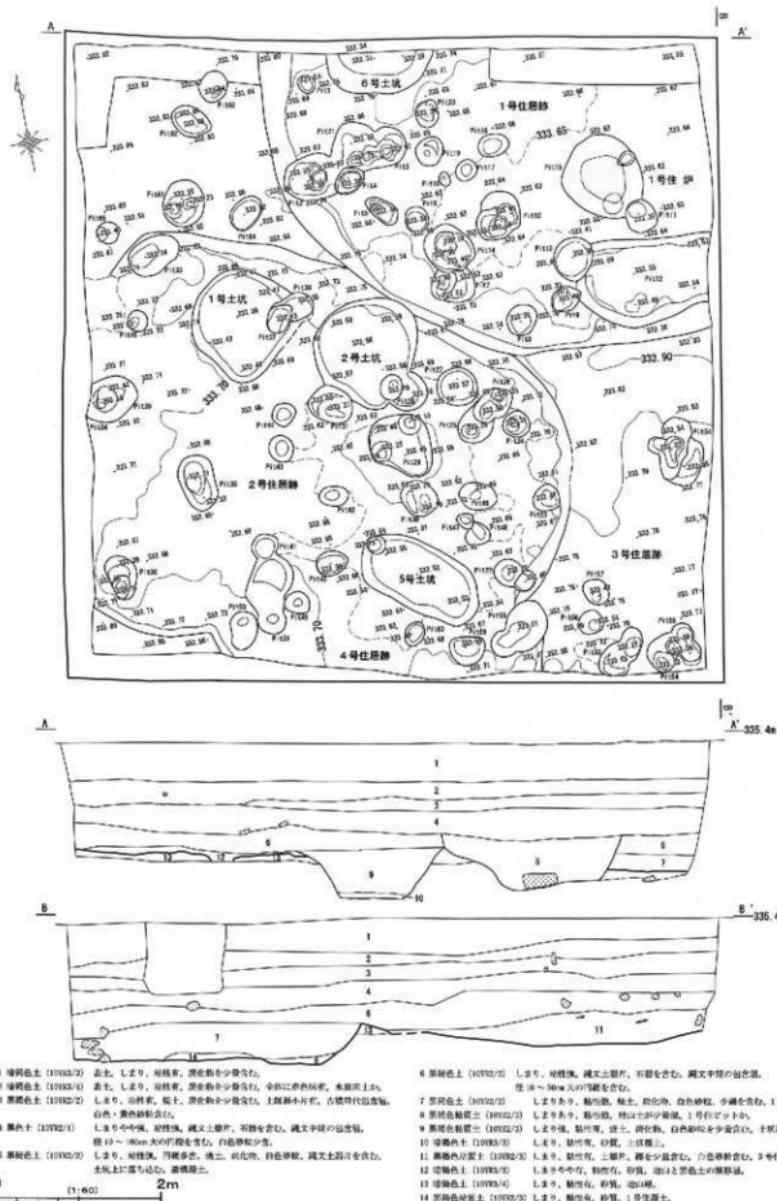
第1節 調査の方法

発掘調査は、重機(0.15)で表土の掘削を行った後、人力による遺構検出を行った。遺構検出については、調査当初、試掘成果から地表下70cmの深さで遺構確認を

試みた。しかし極めて不明瞭な状態であったことから、調査区内にサブトレを設定し、再度遭構と地山の確認を行ってから進めた。遭構確認については、地表下約140 cmで確認した地山と判断し、同層の上層まで包含層を掘



第3図 調査区位置およびグリッド配置



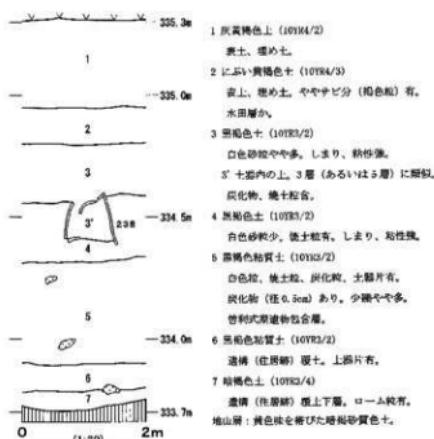
第4図 調査区図

り下げる、遺構の範囲を確認した。出土遺物については、遺構の年代や性格を判断する上で重要と判断したものに限り、トータルステーションによる原位置を記録した。それ以外の遺物は層位、遺構、ほぼ正方形の調査区を4分割したグリッドごとに一括して取り上げた。なお、グリッドは北西・北東・南西・南東の4分割し、1~4グリッドとした。狭小な調査区のため、ほぼ全面が遺構プラン内にあたり、さらに遺構の識別が非常に困難であったことから、遺構番号は調査順に付し、遺構観察または整理段階での検討の結果、遺構と看做し得ないものは欠番とした。

第2節 層序について

先述のとおり、改めて行った層序確認により、調査区北壁際の地表下140cmほどでの深さで遺物を伴わない黄色味を帯びた暗褐色砂質土を確認した。同層を本調査区の地山と判断し、遺構確認を進めた。本調査区の層序状況としては、まず果樹園の表土層下に鉄分を含む堆積層がみられ、かつて水田として利用されていた可能性が窺えた。遺物は耕作の影響もあって上層から混在していた。調査区東壁では地表面から約80cmの深さで、8C前半頃所産の瓶(238)が倒置した状態で出土した。人為的な掘り込みは見られず、また同時期の遺構は確認できなかつたが、調査区からは土師器壺(236)高坏(237)などが出土した。同じく遺構は検出できなかつたが、縄文

前期及び中期の遺構確認面上層には曾利式を主体とした土器片、黒曜石を包含する層の堆積がみられた。なお、層序図として第4図および第5図を掲載したが、基本層序としては縄文期の包含層の上層に古代の遺物を含む層をの関係性を示すため、概出土状況の断面図を使用した。



第5図 基本層序

第4章 発見した遺構・遺物

本調査では、縄文時代前期の堅穴住居跡4軒、縄文時代中期の土坑4基、ピット65基を検出した。出土遺物については、遺構及び包含層より縄文土器・土師器・土製品・石器などプラスチック箱10箱分が出土し、土器類が約132kg、石器類(石材片等含む)が約30kg、総量約162kgを収め上げた。調査面積が狭小で遺構の重複化が著しく、出土した土器の大半が小片であったことからも、調査時の遺構と遺物の共存関係の判断困難であった。本書では調査時に判断した遺構ごとの位置的まとまりを第8・9図に1/6・1/8縮尺でまとめ、遺物実測図としては土器編年・文様構成を基に1/3縮尺で第掲載して表3の土器観察表でまとめた。本章では遺構についての事実記載を行うが、遺構年代については第5章の総括で述べることにしたい。

第1節 堅穴住居跡

調査区北東隅に位置する。1号住は南に隣接する2号住居跡、3号住の一部を譲りて構築されている。住居の北側と東側部分は調査区外に延びているため規模は不明で、平面形態は楕円形を呈すものと推定した。遺構確認面から床面までの深さは30~40cmを測り、壁は緩やか

に立ち上がる。炉は地床炉で小ピットが伴っていた。柱穴は明確ではなく、重複するピットはPit1~21であった。北側では黄色味を帯びた暗褐色砂質土の地山はみられず、覆土下は疊層であった。

2号住居跡

1号住の南側に位置し、東側で3号住、南側で4号住に重複し、北側の一部は1号住に譲されていた。平面形態は長軸約6.5m、短軸約4.8mの楕円形を呈す。遺構確認面から床面までの深さは、約20cmを測り、壁はやや急に立ち上がっていた。床面は概ね平坦で、中央部分がわずかに低くなっていたが、炉は検出できなかつた。

3号住居跡

調査区南東隅に位置し、北側で1号住、西側を2号住または4号住と重複する。平面形態・規模は不明で、東側および南側は調査区外に延びると推定される。炉跡は確認できなかつた。調査区壁面の観察から、1・2号住居跡の確認面と同じ面から掘り込まれていること、底面が平坦で住居床面と看做されること、ピットや覆土中から一定量の土器片が含まれたことから、今回の調査では堅穴住居跡と位置付けた。但し、明確な時期の推定までには至らず、また今後の周辺調査の成果によっては、別

種の遺構に置き換える可能性もある。

4号住居跡

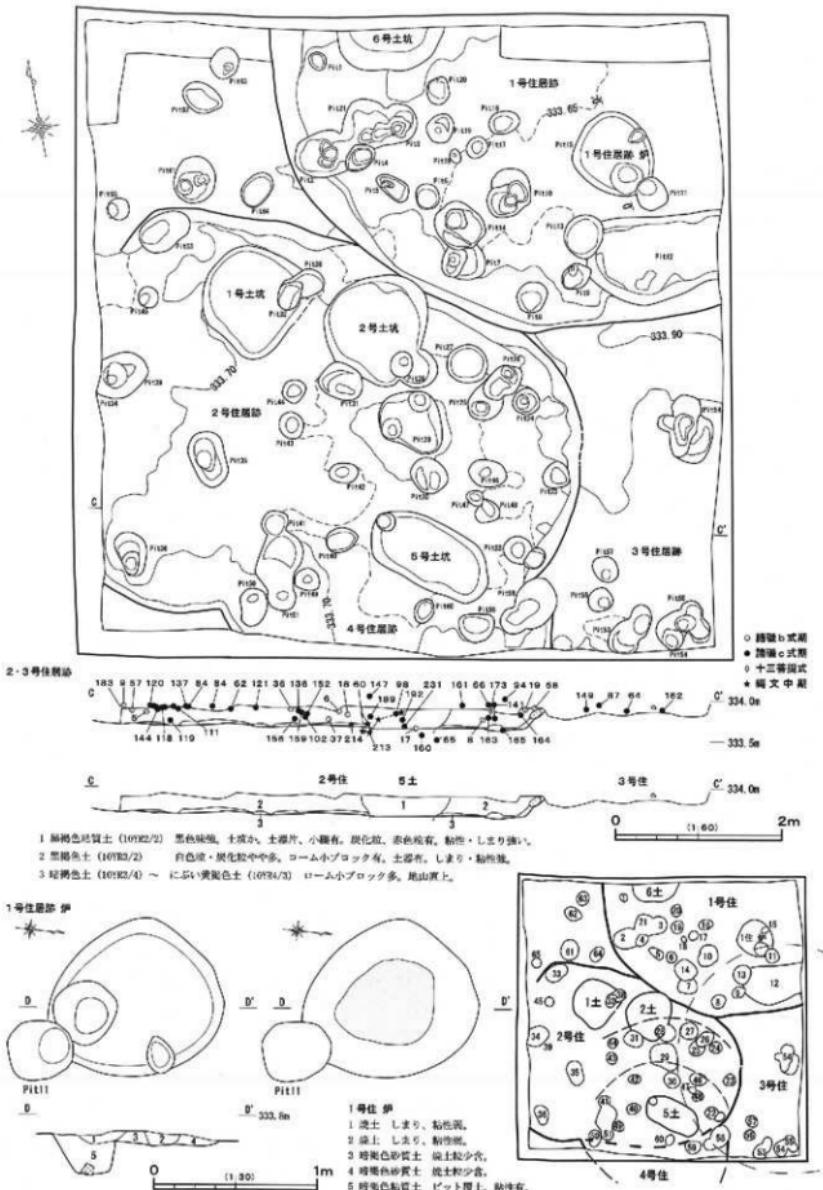
調査区南端に位置し、北側を2号住居に接されている。南側は調査区外に延び、平面形態、規模は不明である。わずかではあるが、西側と東側に壁面の立ち上がりが確認され、底面も平坦であったことから、住居跡と判断した。遺存した壁部と遺物分布状況から、遺構範囲を想定(第6図右)して柱穴配置の推定を試みたが、建て替え・拡張の可能性も窺え、判然とはしなかった。

第2節 ピット

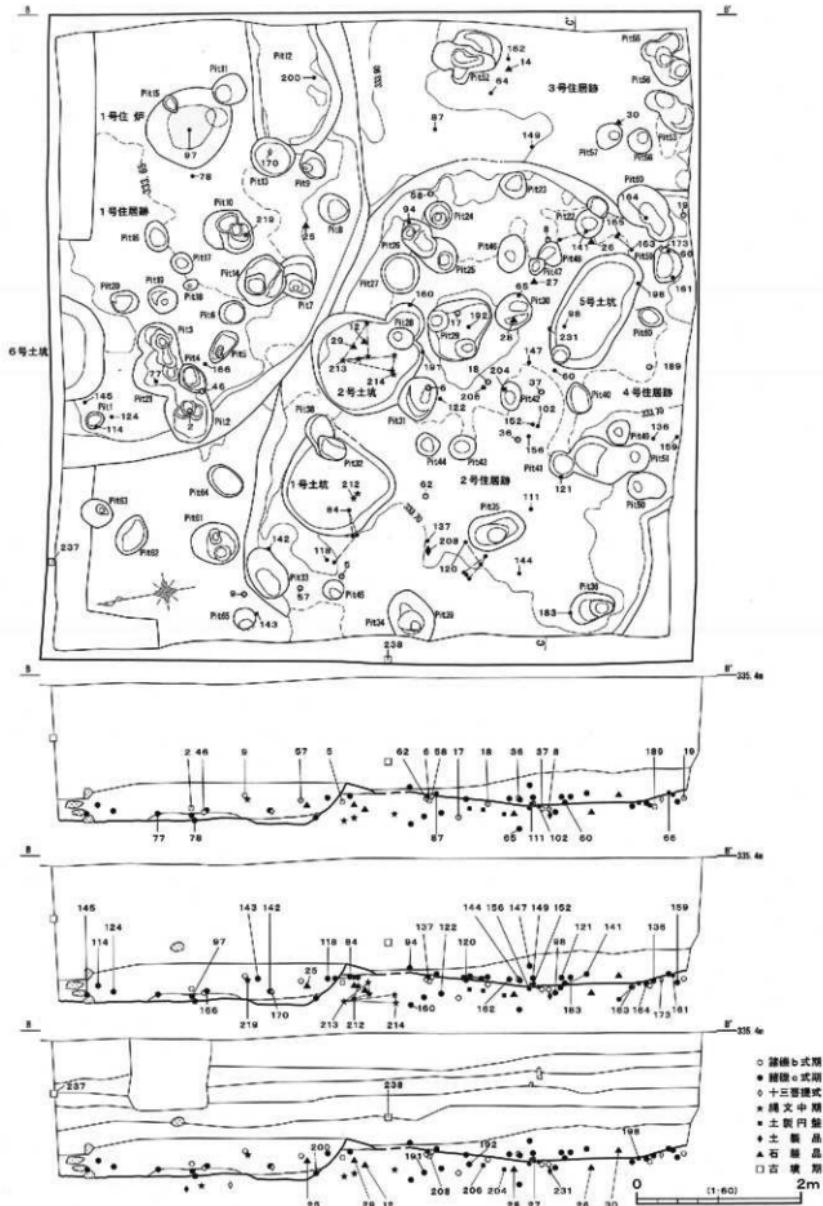
ピットは65基を検出した。調査区北西隅の5基を除き、いずれも堅穴住居の推定範囲内に位置する。平面形態は円形を呈するものが大半を占め、梢円形のものは少ない。確認面からの深さはまちまちであるが、50cmほどの深いものも存在した。なお、調査区東端のPit12は、規模が大きく、33-200が出土しているものの、性格は不明で、調査時に付した名称のまま報告している。他、表1にまとめておく。

表1 ピット一覧

Pi名	直径(cm)	短径(cm)	底標高(mm)	出土遺物(土面)	遺物種類	出土遺物(石墨層)	旧名	備考
Pi1	22	19	333,570	-	-	黒曜石片	1号住 Pi1	
Pi2	54	-	333,367	炭化なし	縫隙b?	黒曜石片	1号住 Pi2	
Pi3	48	-	333,075	炭化なし	?	黒曜石片	1号住 Pi3	
Pi4	40	30	333,228	炭化なし	縫隙c?	黒曜石片・多	1号住 Pi4	
Pi5	45	28	333,394	炭化なし	縫隙c?	黒曜石片	1号住 Pi5	
Pi6	30	28	333,387	炭化なし	縫隙c	黒曜石片	1号住 Pi6	
Pi7	53	-	333,515	炭化なし	縫隙c	黒曜石片	1号住 Pi7	
Pi8	40	34	333,182	-	-	-	1号住 Pi8	
Pi9	39	31	333,456	-	-	-	1号住 Pi9	
Pi10	64	55	333,315	炭化なし	縫隙c?	黒曜石片	1号住 Pi10	
Pi11	40	37	333,325	炭化なし	縫隙e	-	1号住 Pi11	
Pi12	-	128	333,457	33-200	縫隙d	黒曜石片	1号住 Pi12	縫隙・毛鳥は明確ではない
Pi13	16	11	333,390	170	十三脊椎	黒曜石片	1号住 Pi13	
Pi14	58	55	333,076	炭化なし	縫隙b?	黒曜石片	1号住 Pi14	
Pi15	22	17	333,377	-	-	-	1号住 Pi15	
Pi16	40	28	333,420	-	-	-	1号住 Pi16	
Pi17	29	24	333,370	-	-	-	1号住 Pi17	
Pi18	18	13	333,477	-	-	-	1号住 Pi18	
Pi19	38	33	333,400	-	-	-	1号住 Pi19	
Pi20	36	28	333,333	-	-	-	1号住 Pi20	
Pi21	64	-	333,234	77	縫隙c	-	1号住 Pi21	
Pi22	52	33	333,230	炭化なし	?	-	2号住 Pi1	
Pi23	34	32	333,420	炭化なし	縫隙b	黒曜石片	2号住 Pi2	
Pi24	34	32	333,365	-	-	-	2号住 Pi3	
Pi25	39	-	333,261	炭化なし	?	-	2号住 Pi4	
Pi26	54	36	333,314	-	-	-	2号住 Pi5	
Pi27	51	49	333,545	-	-	-	2号住 Pi6	
Pi28	32	27	333,069	160	縫隙b?	黒曜石片	2号住 Pi7	
Pi29	88	76	333,427	17-63-192	縫隙b?	-	2号住 Pi8	
Pi30	46	40	333,250	炭化なし	?	-	2号住 Pi9	
Pi31	52	44	333,215	6	縫隙b	黒曜石小塊	2号住 Pi10	
Pi32	36	26	-	炭化なし	?	-	2号住 Pi11	
Pi33	66	44	333,213	-	-	-	2号住 Pi12	
Pi34	51	-	333,348	炭化なし	縫隙c	-	2号住 Pi13	
Pi35	70	43	333,150	炭化なし	?	黒曜石小塊	2号住 Pi14	
Pi36	57	36	333,347	183	縫隙b	-	2号住 Pi15	
Pi37	25	23	333,250	炭化なし	縫隙b?	-	2号住 Pi16	
Pi38	-	33	333,350	-	-	黒曜石小塊	2号住 Pi19	
Pi39	-	56	333,190	-	-	-	2号住 Pi20	
Pi40	39	30	333,502	炭化なし	縫隙b?	黒曜石片	2号住 Pi21	
Pi41	-	33	-	炭化なし	縫隙b-e	-	2号住 Pi22	
Pi42	36	24	-	炭化なし	縫隙c	黒曜石小塊	2号住 Pi23	
Pi43	34	30	-	-	-	-	2号住 Pi24	
Pi44	30	29	-	-	-	-	2号住 Pi25	
Pi45	27	25	333,536	-	-	-	2号住 Pi26	
Pi46	47	34	333,660	炭化なし	縫隙b	-	2号住 Pi27	
Pi47	20	18	-	炭化なし	縫隙c	-	2号住 Pi28	
Pi48	30	-	8	縫隙b	-	-	2号住 Pi29	
Pi49	30	28	-	-	-	-	2号住 Pi30	
Pi50	49	33	-	炭化なし	?	-	2号住 Pi31	
Pi51	96	51	-	-	-	-	2号住 Pi32	
Pi52	84	67	333,215	16	縫隙b	黒曜石片	3号住 Pi1	
Pi53	67	36	333,220	-	-	-	3号住 Pi2	
Pi54	26	25	333,502	140	縫隙c?	黒曜石片	3号住 Pi3	
Pi55	49	-	333,560	-	-	-	3号住 Pi4	
Pi56	31	29	333,540	-	-	-	3号住 Pi5	
Pi57	35	30	333,347	-	-	-	3号住 Pi6	
Pi58	81	51	333,382	炭化なし	?	黒曜石小塊	4号住 Pi1	
Pi59	43	36	333,430	66-161-173	縫隙b	-	4号住 Pi2	
Pi60	32	23	333,502	138-184	縫隙c	-	4号住 Pi3	
Pi61	58	50	333,204	-	-	-	遺構外 Pi1	
Pi62	51	37	333,670	-	-	-	遺構外 Pi2	
Pi63	40	34	333,656	-	-	-	遺構外 Pi3	
Pi64	46	33	333,687	-	-	-	遺構外 Pi4	
Pi65	27	25	333,557	-	-	-	遺構外 Pi5	



第6図 遺構全体図、1号住 炉

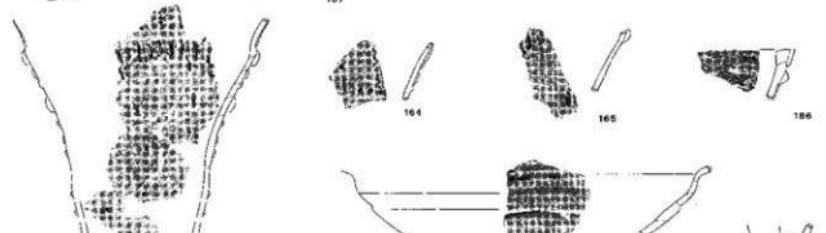
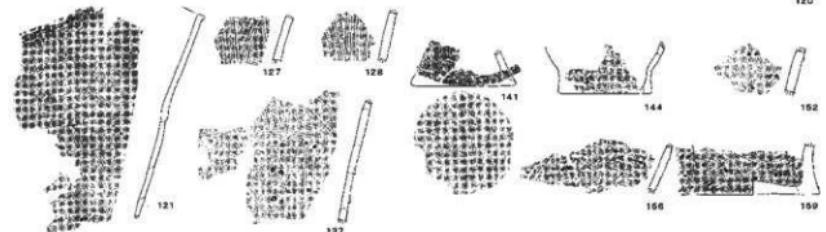
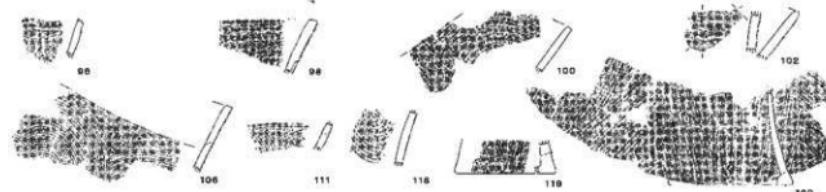
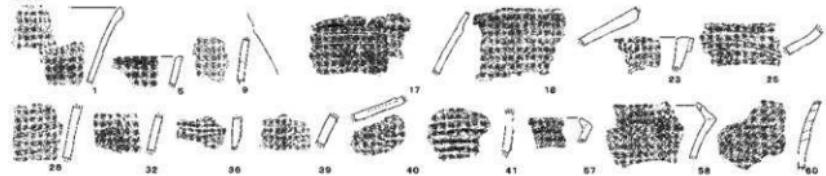


第7図 遺物分布全図

1号住



2号住

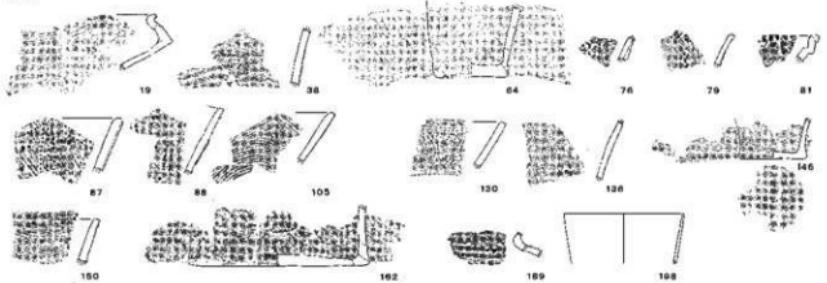


0 (1:4) 10 cm

0 (1:6) 5 cm

第8図 1・2号住 出土遺物

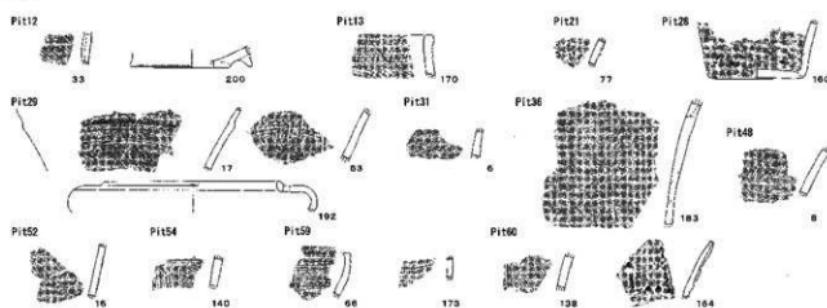
3号住



4号住



ピット



0 5 cm
(1:6)

第9図 3・4号住、ピット 出土遺物

第3節 土坑

本調査では4基を検出した。遺構番号は6号まで付したが、調査・整理による検討の結果、3・4号は欠番とした。

1号土坑

調査区西側に位置し、2号住居跡を破壊して構築される。平面形態は略円形で径は約1.2m、確認面からの深さは35cmを測る。土坑の底面は平坦で、壁面の立ち上がりは急である。出土した212は遺構確認段階から表面に露出しており、土器上部は欠損していたものの、体部はほぼ遺存していた。縄文時代中期の井戸尻式期に位置づけられる。調査所見から、上器を副葬した土坑墓と推定した。

2号土坑

調査区のほぼ中央に位置する。1号土坑の東側に隣接しており、同様な状態で検出した。Pit 28・31と重複し

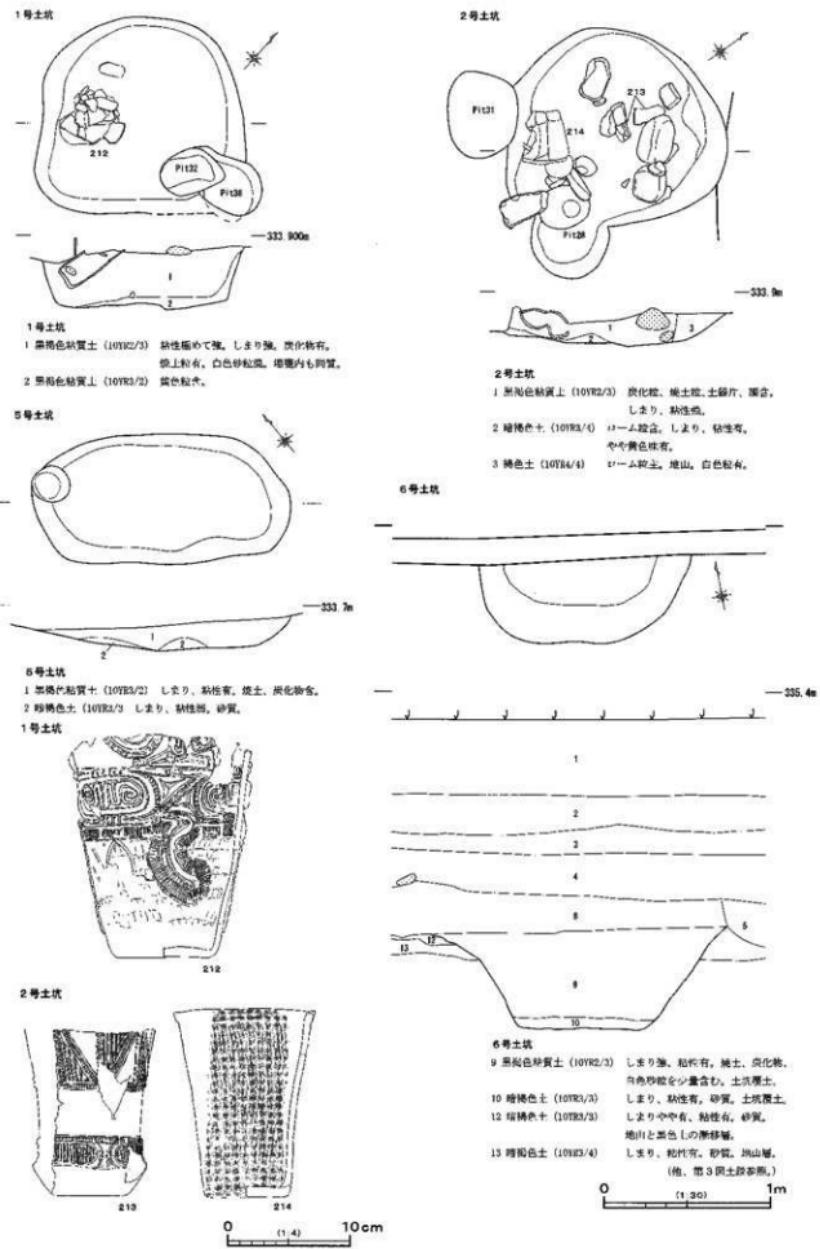
ているが、新旧関係ははっきりしない。重複により一部不明瞭であるが、平面形態は略円形で径は約1.3m、確認面からの深さは0.9mを測る。1号土坑と同様、上坑墓と推定した。出土した213・214の年代はやや古く、縄文中期の藤内式新段階に位置づけた。

5号土坑

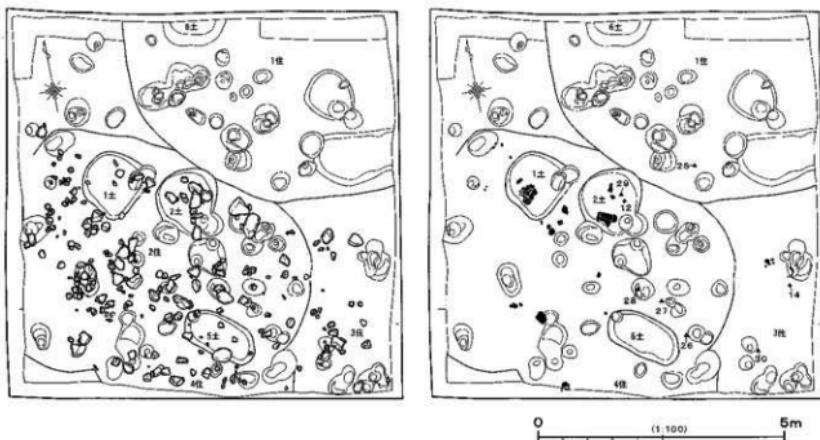
調査区南側に位置し、2号住居床面で確認した。平面形態は梢円形を呈し、規模は長軸約1.6m、短軸約0.8m、2号住居床面からの深さは約20cmを測る。堅穴住居跡に関連する施設としたが、性格は不明である。

6号土坑

調査区北壁際に位置し、1号住を壊していた。北側は調査区外に延び、平面形態は明確ではない。壁面断面観察から径1.3m、遺構確認面からの深さは約0.6mを測る。性格については不明である。



第10回 土坑

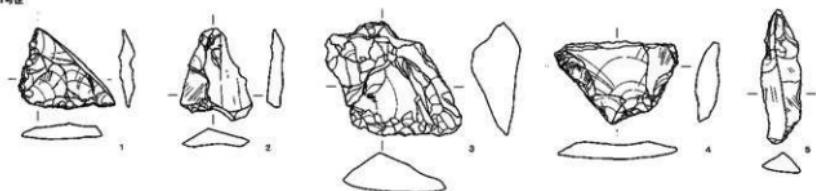


第11図 碑・一括遺物出土状況および石器出土位置

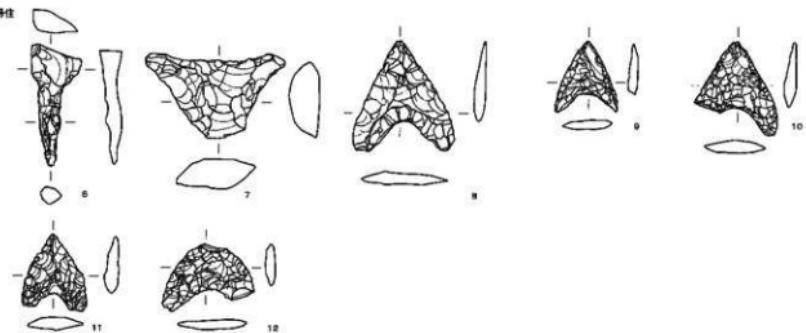
表2 石器観察表

番号	No.	地点	種類	長cm	幅cm	厚cm	重さg	石材	色調	注記	実測	備考
12	1	1号住	石盤	1.6	2.0	0.3	0.66	黒曜石	黒透	I住下層	4	
12	2	1号住	石盤	1.9	1.5	0.4	0.76	黒曜石	黒透	I住下層	5	
12	3	1号住	スクレイパー	2.3	2.7	1.0	4.39	黒曜石	黒	I住下層	1	
12	4	1号住	剥片	1.7	2.5	0.4	1.66	黒曜石	黒透	I住下層	3 加工痕あり	
12	5	1号住	剥片	2.6	0.8	0.4	0.81	黒曜石	黒	I住下層	2	
12	6	2号住	石盤	2.5	1.0	0.5	0.78	黒曜石	黒	2住内4グリッド	6	
12	7	2号住	石盤	1.7	2.9	0.6	2.15	黒曜石	灰	2住内4グリッド	7 推定生地、夢科学山井	
12	8	2号住	石盤	2.3	2.1	0.3	0.98	チャート	オリーブ黒	2住上層	1	
12	9	2号住	石盤	1.5	1.2	0.2	0.26	黒曜石	黒透	2住上層	3	
12	10	2号住	石盤	1.9	1.7	0.3	0.54	黒曜石	黒透	2住上層	2	
12	11	2号住	石盤	1.6	1.3	0.3	0.4	黒曜石	黒	2住上層	4	
12	12	2号住	石盤	1.4	1.9	0.2	0.49	黒曜石	黒	133	5	
12	13	3号住	石盤	1.6	1.2	0.3	0.32	黒曜石	黒透	3住4グリッド	1	
12	14	3号住	剥片	3.6	1.1	0.4	1.68	黒曜石	黒透	138	2 使用痕あり	
12	15	1グリッド	石盤	1.7	1.7	0.3	0.38	黒曜石	黒透	1グリッド	3	
12	16	1グリッド	石盤	1.6	1.4	0.4	0.69	黒曜石	黒	1グリッド	1	
12	17	1グリッド	石盤	2.3	1.7	0.5	1.11	黒曜石	黒	1グリッド遺構外	2	
12	18	3グリッド	石盤	5.0	2.3	0.7	7.6	黒曜石	黒	3グリッド遺構上面	2	
12	19	3グリッド	剥片	4.2	1.4	0.4	2.22	黒曜石	黒透	3グリッド遺構上面	1 使用痕あり	
12	20	4グリッド	石盤	1.6	1.0	0.3	0.33	黒曜石	黒透	4グリッド上面	1	
12	21	4グリッド	石盤	1.9	1.5	0.4	0.61	黒曜石	黒透	4グリッド遺構上面	2	
12	22	4グリッド	石盤	2.2	1.6	0.3	0.75	黒曜石	黒透	4グリッド遺構上面	3	
12	23	遺構外	石盤	1.5	1.4	0.3	0.42	黒曜石	黒透	—	1	
12	24	調查区一帯	石盤	1.7	1.6	0.3	0.62	黒曜石	黒透	—	—	
13	25	1号住	石皿	(13.8)	(17.5)	5.9	1640	安山岩	褐灰	24	1 加工痕あり	
13	26	2号住	石皿	(17.2)	(18.5)	6.4	2130	玄武岩質安山岩	褐(黒)灰黄褐色	173	5	
13	27	2号住	石皿	(11.5)	(18.2)	6.2	1200	玄武岩	褐灰	172	4 加工痕あり	
13	28	2号住	石皿	(14.0)	(23.7)	9.4	3650	玄武岩	褐灰	171	3 加工痕あり	
13	29	3号住	石皿	14.0	10.0	8.9	1610	花崗閃緑岩	褐灰	115	2 摂塵2面	
13	30	3号住	石斧	16.4	7.3	2.8	380	ホルンフェルス	灰褐色～褐灰色	16	6	
13	31	2グリッド	石皿	(25.9)	(24.3)	8.4	5800	玄武岩	灰黄褐色	2グリッドSソウ	7 使用痕あり	

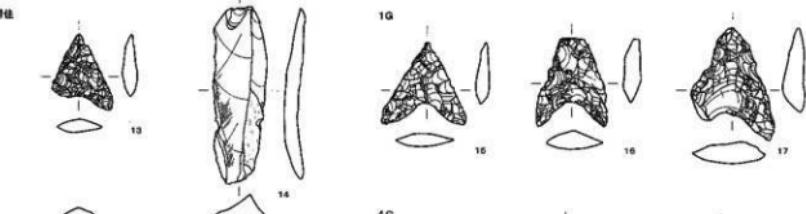
1号位



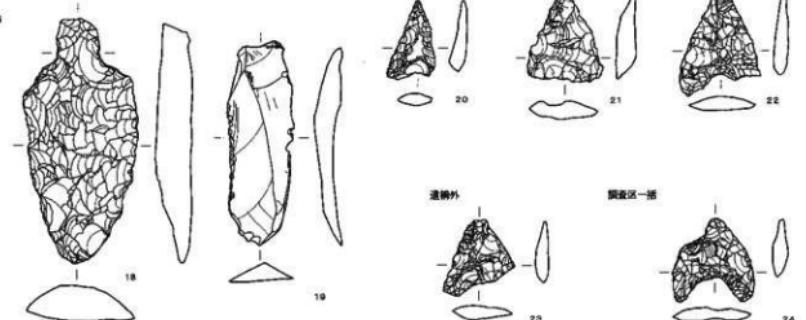
2号位



3号位



3G



造形外



圆盖区一括

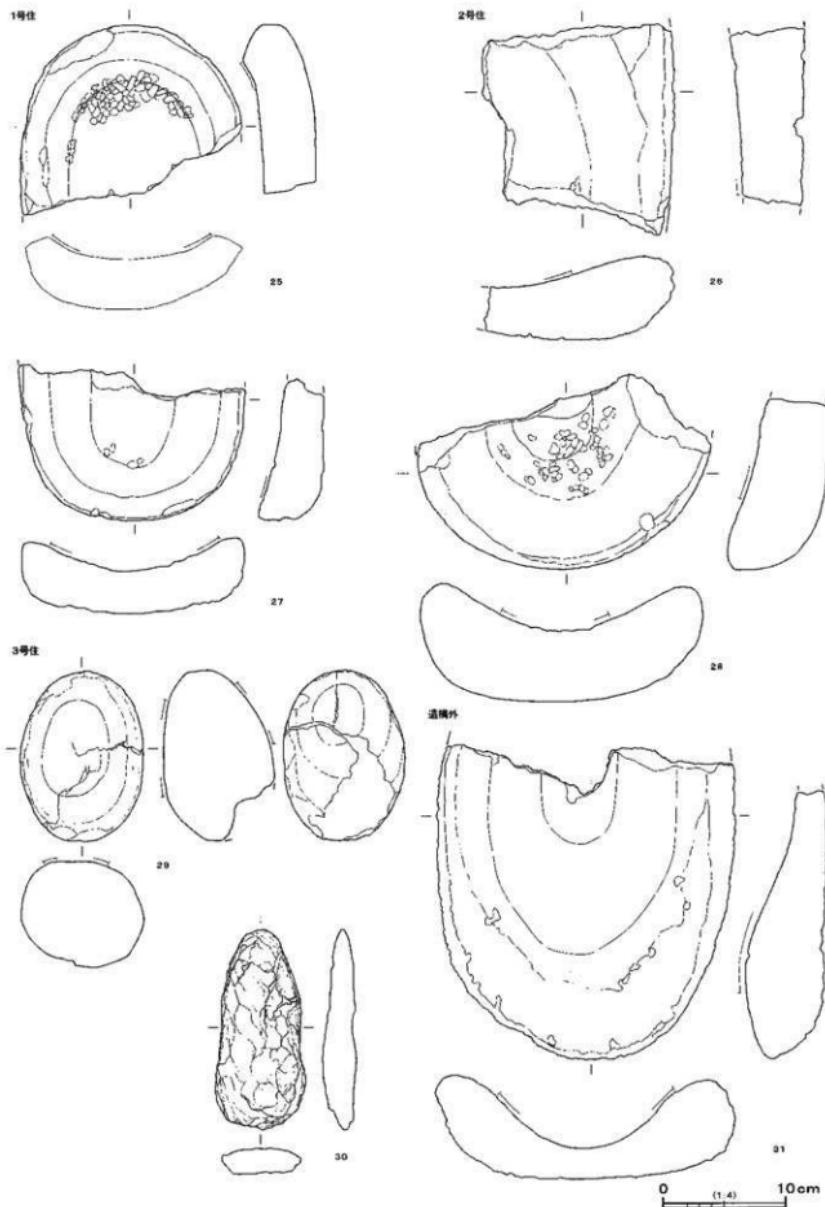


0

(1:1)

3cm

第12図 石製品（1）



第13図 石製品（2）

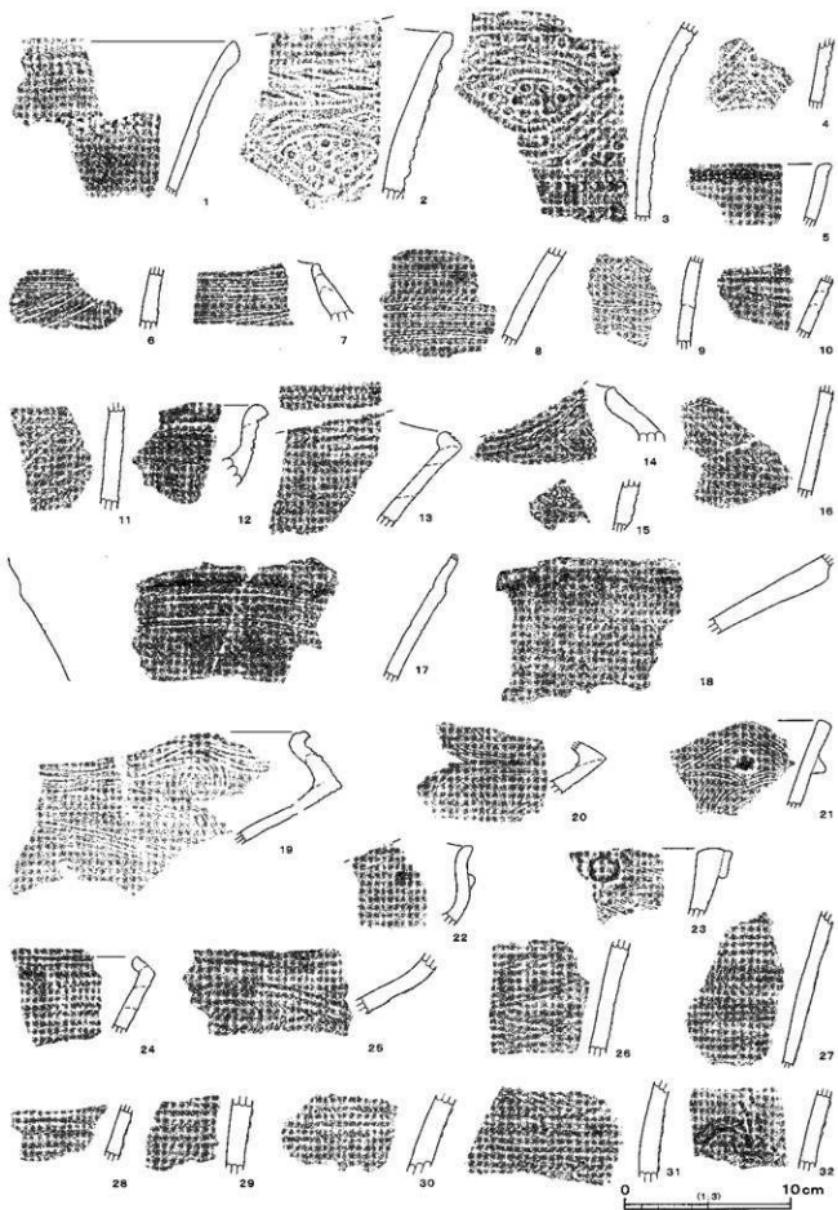
表3 土壤观察表

行番	地名	種別	備考	口	目	古	植物現地名		色	幹皮	葉	注記	開港	備考
							現地名	学名						
1	2 沖	國丈		-	-	-	竹管二重丸葉草(太陽草), 菊芋丈	菊芋草	綠	砂根, 白	中日, 一級	28		
2	2 沖	國丈		-	-	-	竹管二重丸葉草(太陽草), 菊芋丈	菊芋草	白, 紫	22		1		
3	3 HG	國丈	御園		-	-	竹管二重丸葉草(太陽草), 菊芋丈	菊芋草	白, 紫, 霧	17, 29		13		
4	4 沖	國丈		-	-	-	竹管, 竹管による円錐花序	圓錐花序	白, 黑	18		2		
5	5 2P	國丈	御園		-	-	竹管, 竹管による円錐花序	圓錐花序	白, 黑	18		9		
6	6 P11	國丈	御園		-	-	竹管	竹管	白, 紫, 黑	46		7		
7	6.5 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 國丈地芝	竹管	白, 紫, 黑	42		4		
8	6.7 2P	國丈	御園		-	-	竹管, 國丈地芝	竹管	白, 紫, 黑	40		10		
9	8.5 1P	國丈	御園		-	-	竹管	竹管	白, 黑	26		18		
10	10.5 3G	國丈	御園		-	-	竹管, 竹管による円錐花序	圓錐花序	白, 黑, 紫	27		2		
11	11 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 竹管による円錐花序	圓錐花序	白, 黑, 少	18, 29		10		
12	17 2P	國丈	御園		-	-	竹管, 竹管による円錐花序	圓錐花序	白, 小黑	19		19		
13	13 4G	國丈	御園		-	-	竹管, 國丈地芝, 菊芋丈	圓錐花序(竹管)	白, 黑, 白, 黑	8		8		
14	14 1.5 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 國丈地芝, 菊芋丈	圓錐花序(竹管)	白, 黑, 紫	14, 22		1		
15	15 7.5 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 國丈地芝, 菊芋丈	圓錐花序(竹管)	白, 黑, 紫, 黑	21, 29		10		
16	16 P16	國丈	御園		-	-	竹管, 國丈地芝	圓錐花序(竹管)	白, 黑, 紫	21, 29		12		
17	17 P15	國丈	御園		-	-	竹管, 國丈地芝	圓錐花序(竹管)	白, 黑	170		15		
18	18 2G	國丈	御園		-	-	竹管	竹管	白, 黑, 紫	42		18	新也原いし	
19	20 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管	竹管	白, 黑, 紫	11, 49		9		
20	21 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管	竹管	白, 黑, 紫	17		10		
21	22 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管	竹管	白, 黑, 紫	37		11		
22	23 4G	國丈	(注)		-	-	竹管, 菊芋丈, ヘラナザ	圓錐花序(竹管)	白, 黑	47		8		
23	24 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈, ヘラナザ	圓錐花序(竹管)	白, 黑	47		8		
24	25 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 雪, 雪金	20, 22		2		
25	26 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 黄	27		1		
26	27 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 分枝	27		6		
27	27 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 分枝	27		6		
28	28 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 分枝	27		7		
29	29 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑	27		8		
30	31 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑	27		8		
31	31 1.5 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 雪, 雪金	20, 22		2		
32	32 2G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 黄, 雪	21, 29		7		
33	33 P12 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 黄, 雪	21, 29		7		
34	34 3G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 黄, 雪	21, 29		7		
35	35 2G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈, 菊芋丈	圓錐花序(竹管)	白, 黑, 黄, 雪	21		1		
36	36 2G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 黄, 雪	103		2		
37	37 2G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序(竹管)	白, 黑, 雪, 雪金	134		10		
38	38 3G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序(竹管)	白, 黑, 雪	37, 47		4		
39	39 2G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 雪, 雪金	18, 29		42		
40	40 2G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 黄, 雪	21, 29		3		
41	41 2G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 分枝	21		1		
42	43 4G	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 分枝	21		15		
43	45 2G	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 分枝	21		2		
44	46 10	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 分枝	21		2		
45	45 10	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 分枝	21		2		
46	46 10	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 分枝	43		3		
47	47 2G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序(竹管)	白, 黑, 分枝	21		2		
48	48 4G	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 分枝	47		10		
49	49 4G	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 分枝	21		7	内岐瀬波底海賊	
50	50 1G	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈(太陽草), 菊芋丈	圓錐花序	白	11, 17, 29	9	竹管倒曳		
51	51 3G	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈(太陽草), 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	23		竹管倒曳		
52	52 2G	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈(太陽草), 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	5		竹管倒曳		
53	53 3G	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈(太陽草), 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	29		29		
54	54 2G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	19		18		
55	55 3G	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	29		24		
56	56 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	29		24		
57	57 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	85		5		
58	58 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	1		4		
59	59 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	25		25		
60	61 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	164		16		
61	62 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		29		
62	63 4G	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
63	64 2G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
64	65 2G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
65	66 2G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
66	67 2G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
67	68 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
68	69 4G	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
69	70 4G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
70	71 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
71	72 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
72	73 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
73	74 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
74	75 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
75	76 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
76	77 2G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
77	78 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
78	79 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
79	80 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
80	81 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
81	82 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
82	83 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
83	84 2G 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
84	85 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
85	86 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
86	87 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
87	88 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
88	89 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
89	90 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
90	91 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
91	92 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
92	93 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
93	94 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
94	95 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
95	96 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
96	97 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
97	98 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
98	99 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
99	100 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
100	101 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
101	102 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
102	103 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
103	104 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
104	105 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
105	106 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
106	107 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
107	108 10 沖	國丈	御園		-	-	竹管, 菊芋丈	圓錐花序	白, 黑, 紫	186		5		
108														

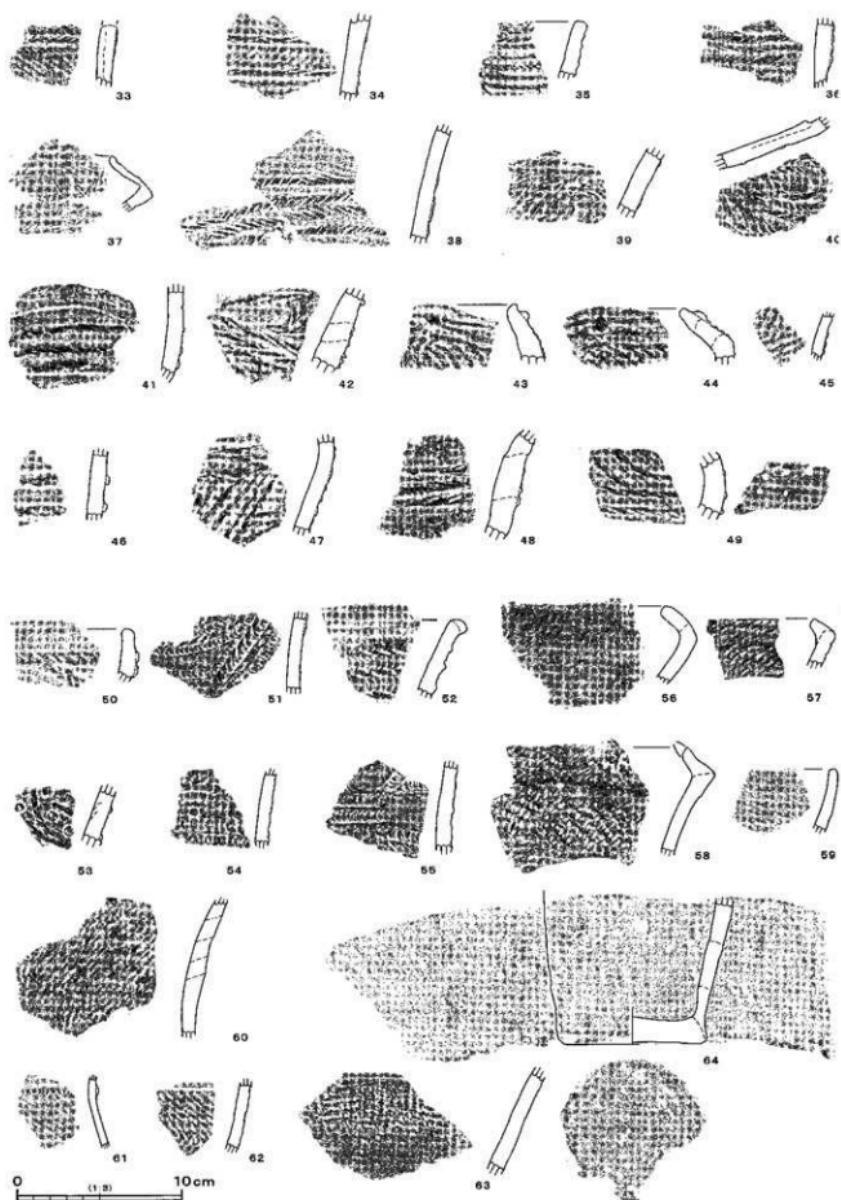
回数	品目	種類	原産地	口	身	筋	魚種注記	色調	出糸	沈糸	網目	網名
19 83	2号	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (外) 深瀬赤身	赤身	2枚	10	
19 87	2号	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文、内側浅底。	赤身	赤身、深、黒	4枚		
19 90	4号	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、赤、青	4枚		
19 91	2号	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬赤身	赤身、青、赤	2枚	23	
19 92	4号	鮎文	深瀬	-	-	-	平均2列、銀色の鱗、2列ボタン式腹付文。	赤身	赤身、青	2枚	18	
19 93	4号	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、青	2枚	5	
19 94	4号	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、青、赤	3枚	29	
19 95	2号	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、青	2枚	4	
19 96	2号	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、青	2枚	39	
19 97	4号	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、青	2枚	35	
19 98	4号	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、青	2枚	24	
19 99	10	鮎文	深瀬	(37.8)	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	1枚	1	薄糸目
19 100	2号	鮎文	深瀬	(36.4)	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	2枚	48	
19 101	10	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	1枚	9	
19 102	2号	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	1枚	43	
19 103	4号	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	1枚	3	
19 104	4号	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	4枚	2	濃糸目
19 105	9号	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	2枚	7	濃糸目
19 106	7号	鮎文	深瀬	(46.6)	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	2枚	29	濃糸目
19 107	4.5	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	1枚	1	薄糸目
19 108	20	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	1枚	14	
19 109	40	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	1枚	1	薄糸目
19 110	10	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	1枚	15	
19 111	2.5	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	1枚	25	濃糸目
19 112	10	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	1枚	5	
19 113	30	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文、深底。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白	2枚	19	
19 114	1.5	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文、深底。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白	1枚	5	
19 115	10	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白	1枚	27	薄糸目
19 116	30	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白	1枚	13	薄糸目
19 117	10	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白	1枚	12	薄糸目
19 118	2.5	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白	1枚	44	濃糸目
19 119	20	鮎文	深瀬	(12.0)	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	7枚	20	
19 120	2号	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	7枚	10	10~24枚目 (2枚)
19 121	2号	鮎文	深瀬	(10.6)	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	7枚	24	26番底模様
19 122	2号	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	6枚	8	
19 123	20	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	2枚	9	
19 124	1.5	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	2枚	27	
19 125	40	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	4枚	6	
19 126	30	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	3枚	17	
19 127	2.5	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模	小赤身	赤身、白、青	2枚	12	十三言首筋模
19 128	2.5	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模	内) 深瀬	赤身	2枚	11	十三言首筋模
19 129	40	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模	内) 深瀬	赤身、白、青	4枚	27	十三言首筋模
19 130	20	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模、2列ボタン式腹付文、黒筋が並んで	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	2枚	8	
19 131	40	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模、2列ボタン式腹付文、黒筋が並んで	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	4枚	2	
19 132	20	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模、2列ボタン式腹付文、黒筋が並んで	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	2枚	5	
19 133	5	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模、2列ボタン式腹付文、黒筋が並んで	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	1枚半強	4	
19 134	20	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模、2列ボタン式腹付文、黒筋が並んで	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	2枚	15	
19 135	40	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模、2列ボタン式腹付文、黒筋が並んで	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	4枚	3	
19 136	20	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模、2列ボタン式腹付文、黒筋が並んで	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	1枚	12	
19 137	5	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模、2列ボタン式腹付文、黒筋が並んで	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白	1枚	18	
19 138	Psi30	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模、2列ボタン式腹付文、黒筋が並んで	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白	4枚	14	
19 139	40	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模	内) 深瀬	赤身、白	4枚	25	
19 140	12.7	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文、深底。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	1枚	12	13言首筋模
19 141	25	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文、深底。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	1枚	21	
19 142	10	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文、深底。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	1枚	20	
19 143	10	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文、深底。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	2枚	25	
19 144	25	鮎文	深瀬	-	-	-	銀色の鱗、黒斑が並んで、2列ボタン式腹付文、深底。	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白、青	7枚	37	
19 145	10	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模	小赤身	赤身、白	2枚	9	
19 146	25	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模	内) 深瀬	赤身、白	1枚	11	
19 147	10	鮎文	深瀬	(24.2)	-	-	平行筋模	内) 深瀬	赤身、白	1枚	21	
19 148	25	鮎文	深瀬	(14.0)	-	-	平行筋模	内) 深瀬	赤身、白	2枚	12	
19 149	10	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模	内) 深瀬	赤身、白	1枚	26	
19 150	1/2	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模	内) 深瀬	赤身、白	1枚	25	
19 151	35	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模、2列ボタン式腹付文、黒筋が並んで	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白	2枚	7	
19 152	25	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模、2列ボタン式腹付文、黒筋が並んで	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白	2枚	37	
19 153	6.5	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模、2列ボタン式腹付文、黒筋が並んで	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白	1枚	2	
19 154	25	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模、2列ボタン式腹付文、黒筋が並んで	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白	2枚	2	
19 155	10	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模、2列ボタン式腹付文、黒筋が並んで	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白	1枚	21	
19 156	2.5	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模、2列ボタン式腹付文、黒筋が並んで	小赤身 (内) 深瀬	赤身、白	1枚	17	
19 157	10	鮎文	深瀬	(18.0)	-	-	平行筋模	内) 深瀬	赤身、白	1枚	4	
19 158	Psi18	鮎文	深瀬	-	-	-	平行筋模	内) 深瀬	赤身、白	1枚	178	
19 159	22.1	鮎文	深瀬	-	-	-	細筋模子、南都代地	小赤身	赤身、白、青	1枚	11	
19 160	28	鮎文	深瀬	-	-	-	細筋模子、南都代地	小赤身	赤身、白、青	2枚	10	
19 161	2.5	鮎文	深瀬	-	-	-	細筋模子、南都代地	小赤身	赤身、白、青	2枚	34	
19 162	17.5	鮎文	深瀬	-	-	-	細筋模子、南都代地	小赤身	赤身、白、青	2枚	14	
19 163	20	鮎文	深瀬	-	-	-	細筋模子、南都代地	小赤身	赤身、白、青	2枚	13	
19 164	Psi10	鮎文	深瀬	-	-	-	細筋模子、南都代地	小赤身	赤身、白、青	1枚半強	41	
19 165	1.5	鮎文	深瀬	-	-	-	細筋模子、南都代地	小赤身	赤身、白、青	1枚半強	40	
19 166	1.5	鮎文	深瀬	-	-	-	細筋模子、南都代地	小赤身	赤身、白、青	2枚	20	
19 167	10	鮎文	深瀬	-	-	-	細筋模子、南都代地 (2枚)	小赤身	赤身、白	1枚	12	
19 168	20	鮎文	深瀬	-	-	-	細筋模子、南都代地 (2枚)	小赤身	赤身、白	2枚	17	
19 169	2.5	鮎文	深瀬	-	-	-	細筋模子、南都代地 (2枚)	小赤身	赤身、白	1枚	11	
19 170	Psi10	鮎文	深瀬	(9.0)	-	-	細筋模子	内) 深瀬	赤身、白	2枚	11	
19 171	4.5	鮎文	深瀬	-	-	-	細筋模子、南都代地	小赤身	赤身、白	2枚	18	
19 172	3G	鮎文	深瀬	-	-	-	細筋模子、キタウニ文 (裏面に並んで細筋模子)	内) 深瀬	赤身、白	2枚	22	
19 173	Psi9	鮎文	深瀬	-	-	-	細筋模子、キタウニ文 (裏面に並んで細筋模子)	内) 深瀬	赤身、白	2枚	17	
19 174	15	鮎文	深瀬	-	-	-	細筋模子、キタウニ文 (裏面に並んで細筋模子)	内) 深瀬	赤身、白	1枚	18	
19 175	20	鮎文	深瀬	-	-	-	細筋模子、キタウニ文 (裏面に並んで細筋模子)	内) 深瀬	赤身、白	2枚	21	

表4 土制品相容性

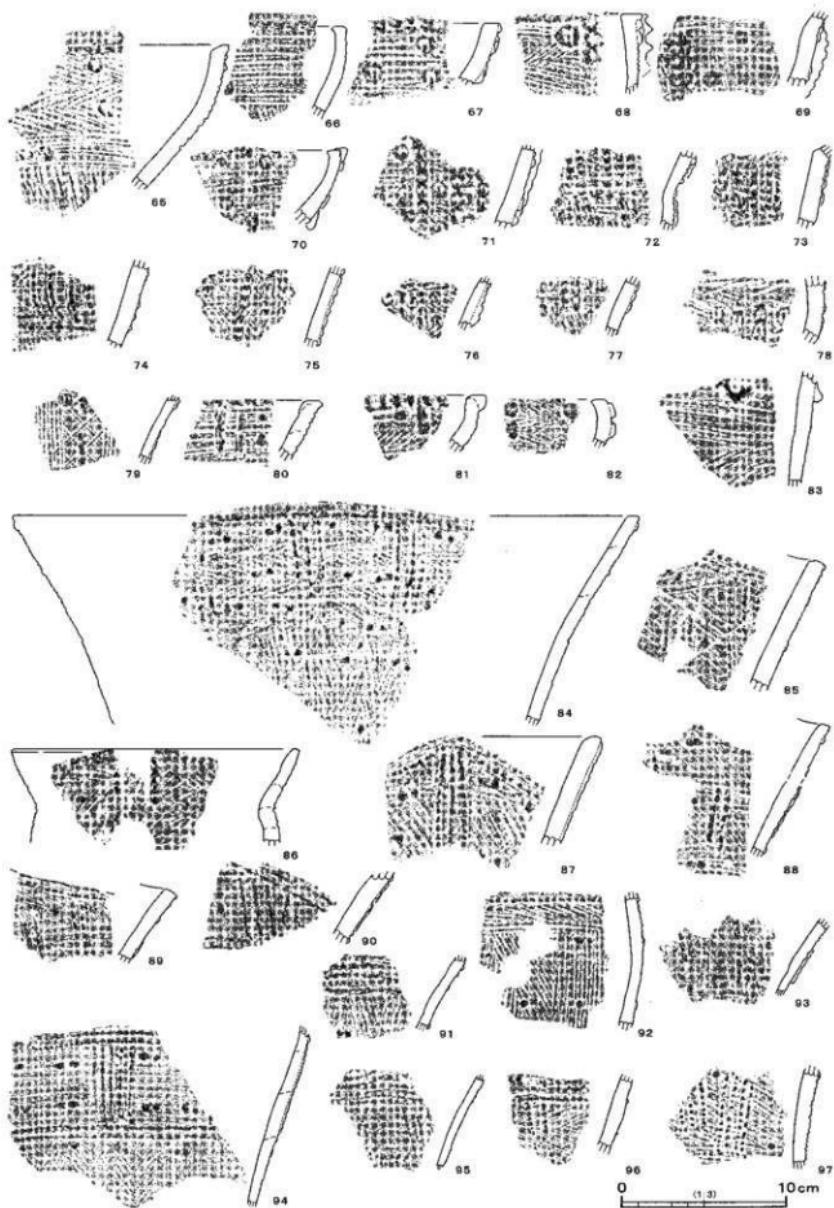
番 号	地 点	種別	時期	緯度	経度	標高	直さき	整修技術		名 調	歴 史	歴 史	注 記	実測	備 考
								直	斜						
21-202	1号住	土壌円筒	純文前期	2.8	3.0	1.0	10	直傾	ナリ	赤堀地	やや傾	白多	1住下層	16	
21-203	2号住	土壌円筒	純文前期	6.1	4.6	1.0	28	～う切り浮城壁、純文地丸	(内)直傾 (外)にぶい直傾	赤	赤、白、墨濃	2住		18	
21-204	2号住	土壌円筒	純文前期	4.6	4.9	1.1	29	始期浮城壁	直	赤堀地	やや傾	白多	107	22	
21-205	2グリッド	土壌円筒	純文前期	6.1	6.6	0.8	25	竹管による瓦敷地	赤堀	直	黒、墨、白	2グリッド	39		
21-206	2号住	土壌円筒	純文前期	6.9	5.9	1.1	47	始期浮城壁、地盤に平行洗浄	(内)赤堀 (外)壁構造	赤	白や多	106		24	
21-207	3号住	土壌円筒	純文前期	5.8	5.6	1.0	42	羽状虎彫、輪郭浮彫彫、筋付柱	赤堀	直	黒多、白	3住		23	
21-208	2号住	土壌円筒	純文前期	4.8	-	1.0	14	直傾、浮城壁	赤	やや傾	赤、白少、黒少	10	20	外堀一部剥落	
21-209	1号住	土壌円筒	純文前期	4.7	-	0.8	16	直傾、削り取り	(内)灰オーリーフ (外)柱	直	白多、赤・黒少	1住上層	21	十三官復式堀	
21-210	2グリッド	土壌円筒	純文前期	3.6	2.2	1.2	14	直傾、削り取り	(内)黄緑 (外)赤堀	直	白多	1	17	十三官復式堀?	
21-211	2グリッド	土壌円筒	純文前期	4.1	4.1	1.3	24	ナリ	輪郭	直	白・墨	2グリッド	19		
21-224	4グリッド	土偶	純文中期	6.3	5.7	4.3	107	虎彫、鹿彫	赤堀	やや傾	白多、黒	4グリッド	1		
22-225	2グリッド	土偶	純文中期	2.7	4.8	4.5	41	鹿彫、虎彫	赤堀地	直	白多、黒、赤少	2グリッド	2		
22-226	1グリッド	土偶	純文中期	1.9	4.3	1.2	7		明暗～黃緑	直	白多、黒	1グリッド	3		
22-227	2グリッド	獸面把手	純文中期	2.8	2.8	2.2	13	輪郭矢穴、直傾	赤	直	白、黒	2グリッド	4	複縁か	
22-228	3グリッド	把手	純文中期	3.0	3.9	1.5	21	始期浮城壁	赤堀地	直	白、黒	3グリッド	5	ブリッヂ状	



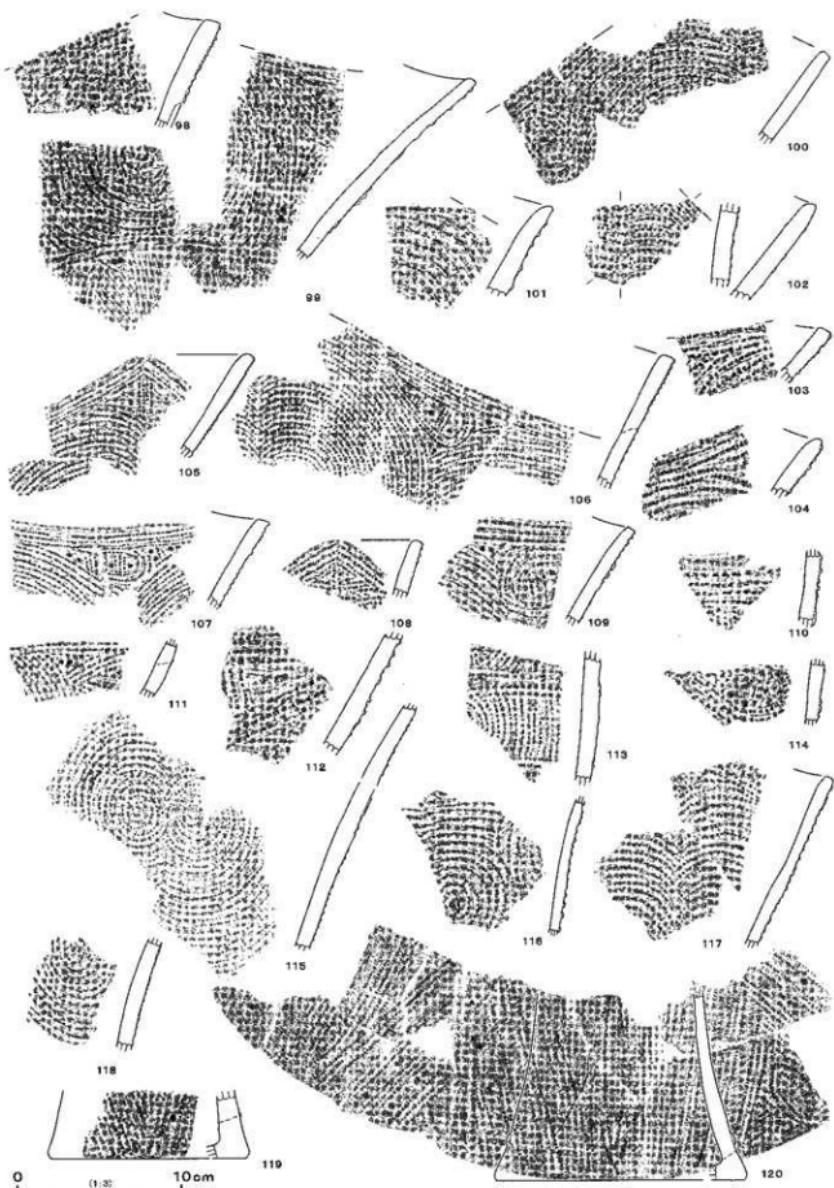
第14図 遺物 (1)



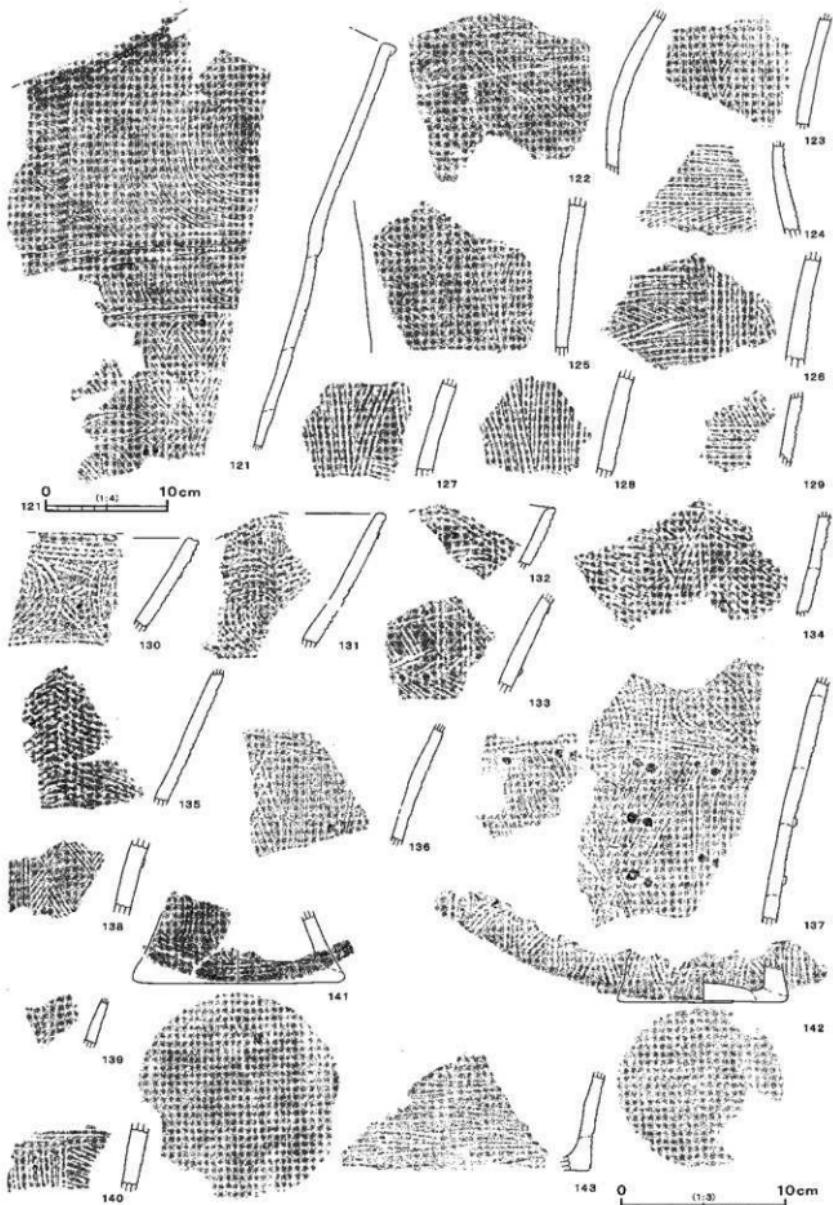
第15図 遺物 (2)



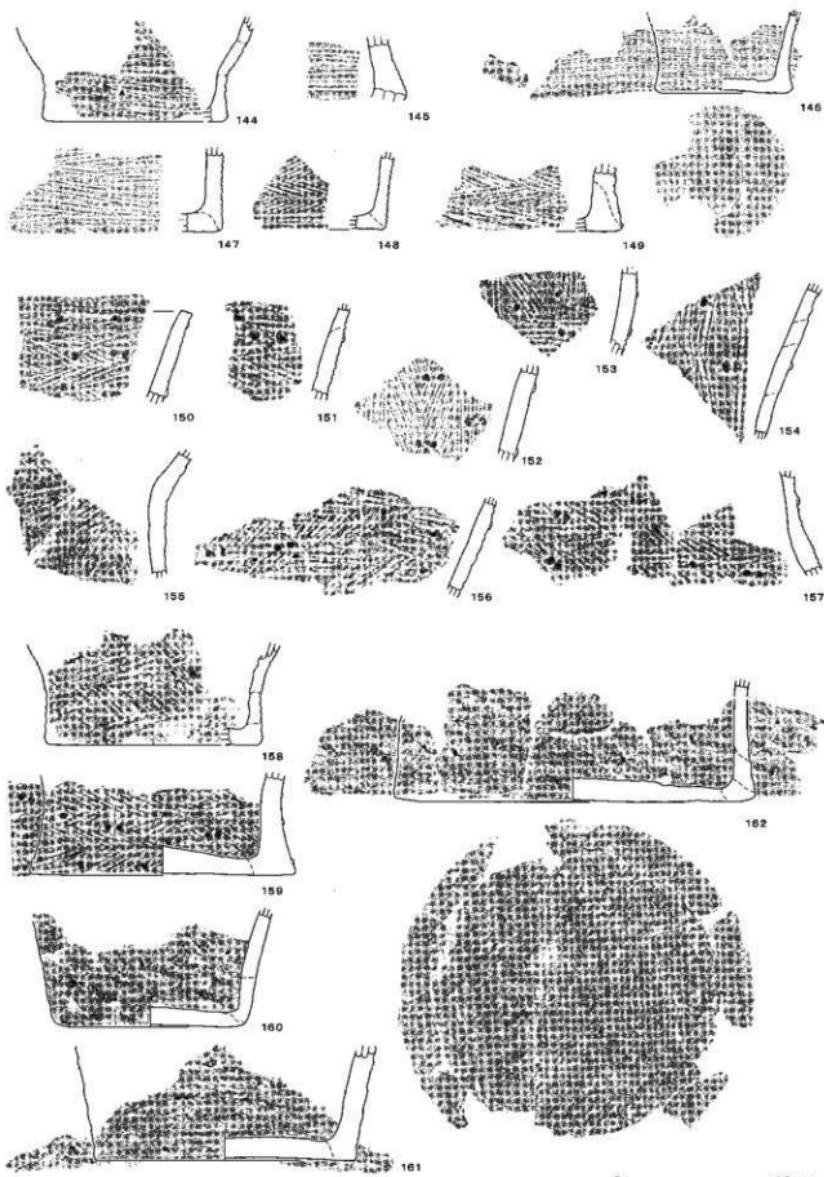
第16図 遺物 (3)



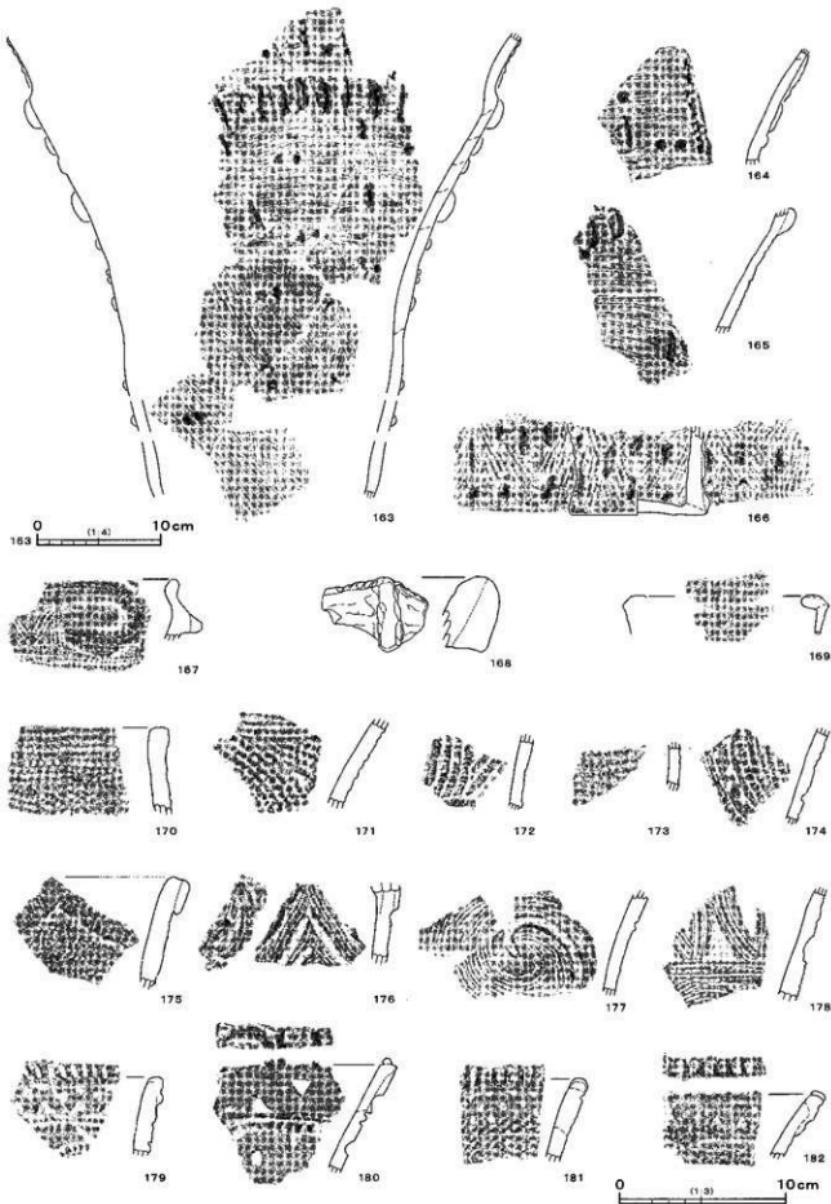
第17図 遺物 (4)



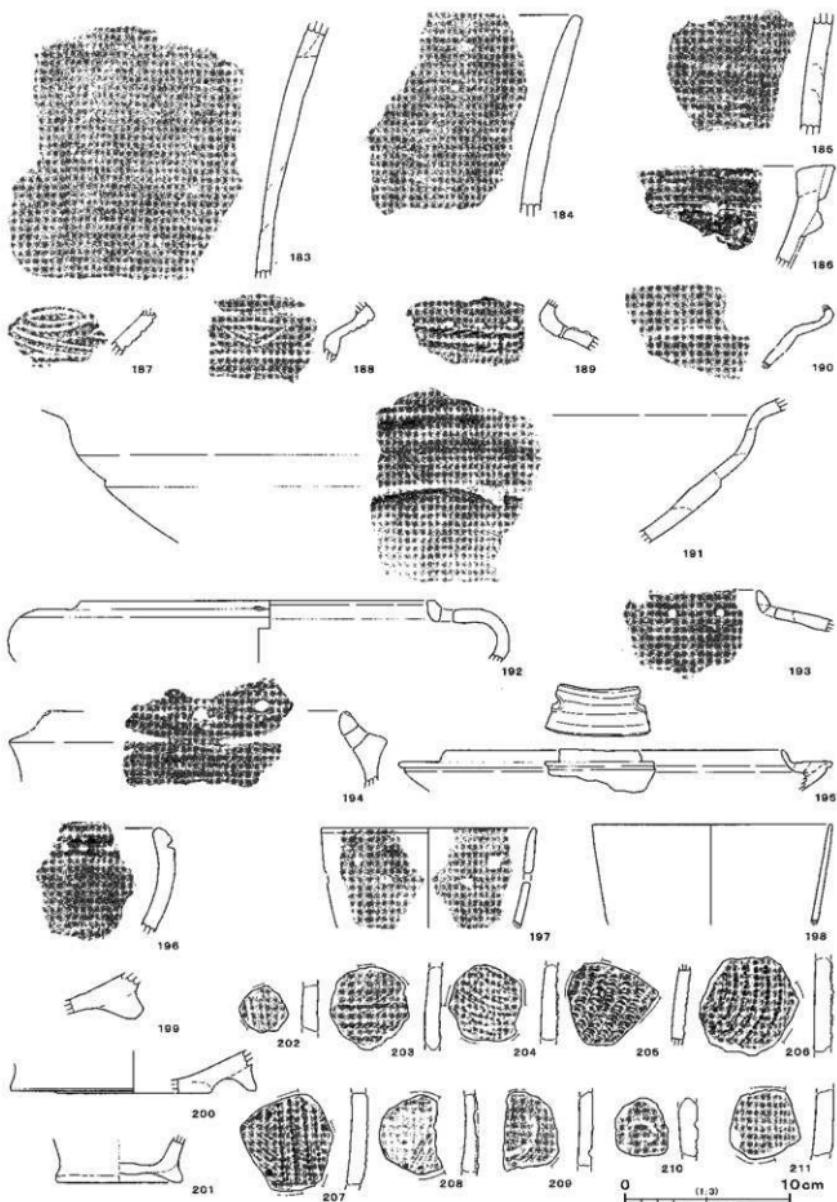
第18図 遺物 (5)



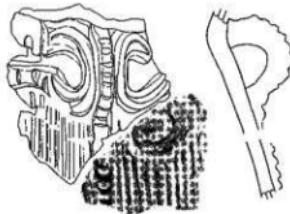
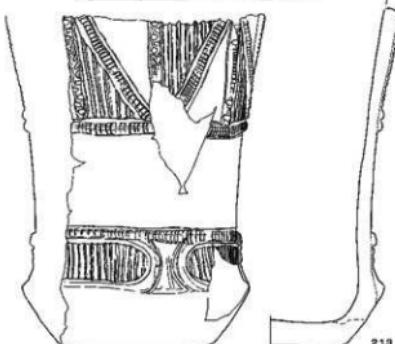
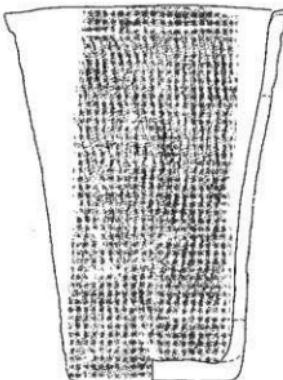
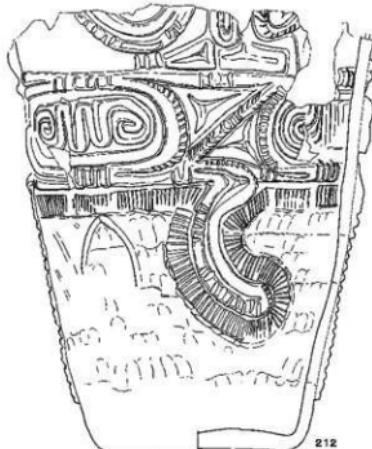
第19図 遺物(6)



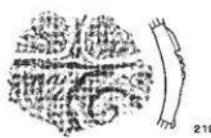
第20図 遺物 (7)



第21図 遺物 (8)

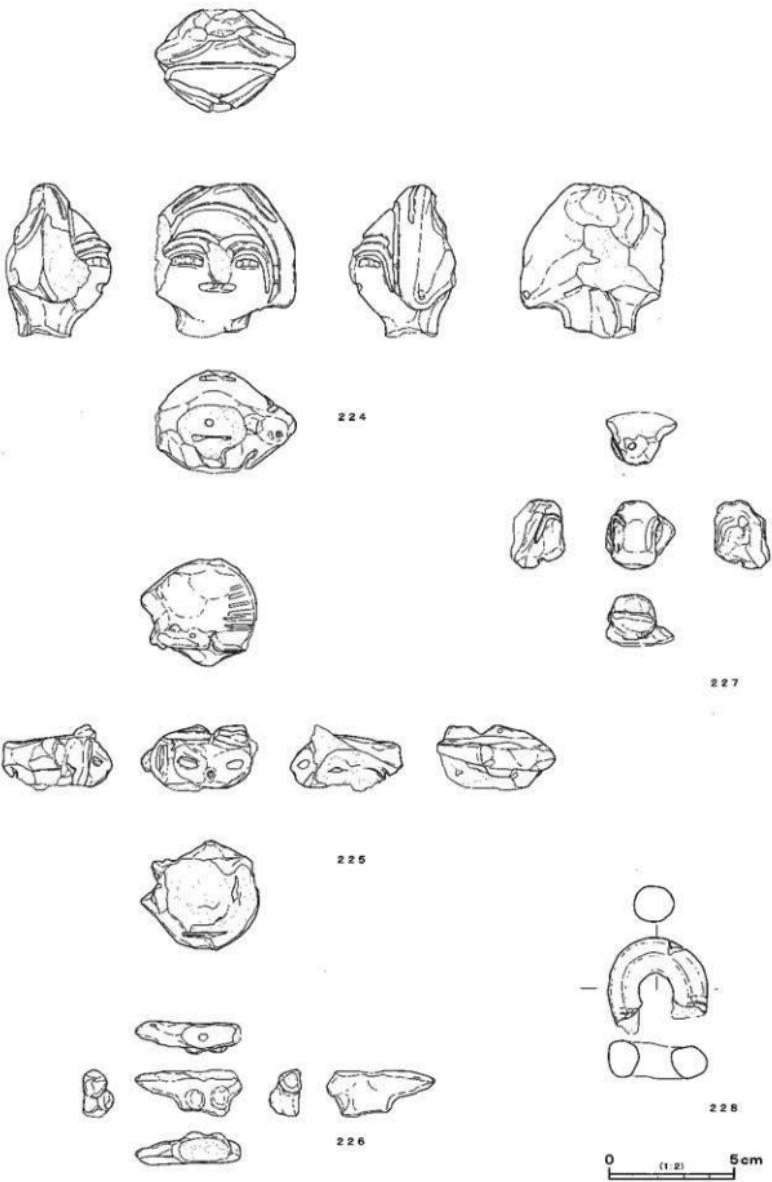


212~214 (1:4) 10cm

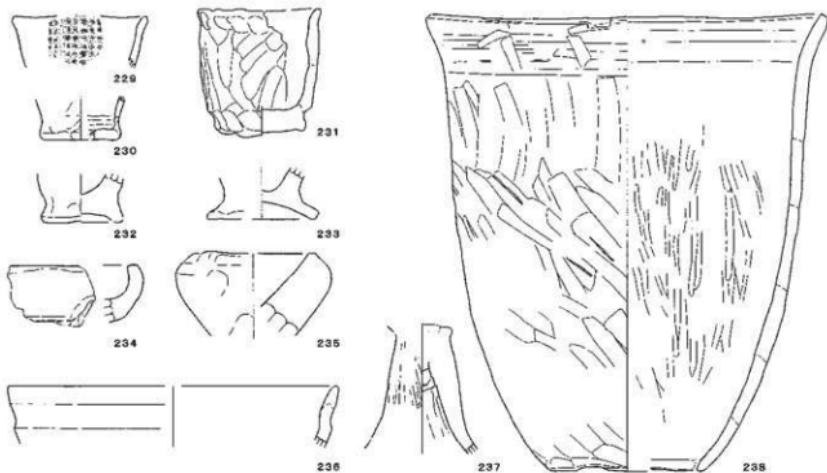


0 (1:3) 10cm

第22図 遺物 (9)



第23図 土製品(1)



第24図 土器品(2)、古墳時代遺物

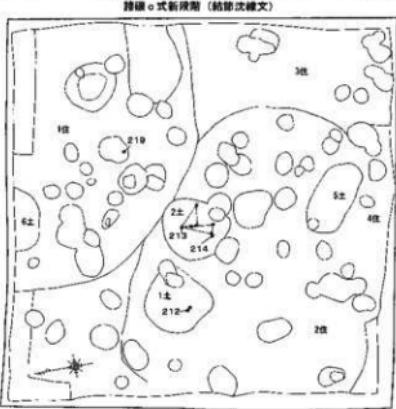
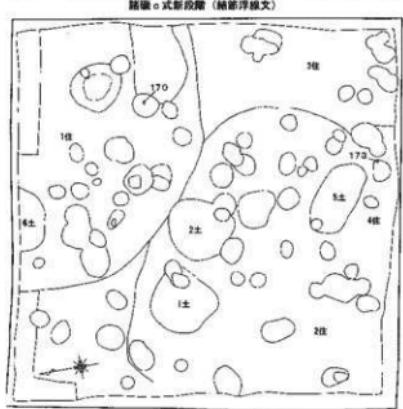
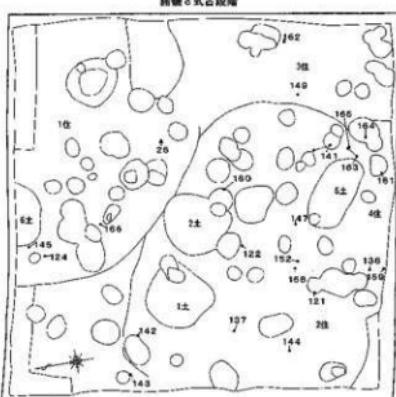
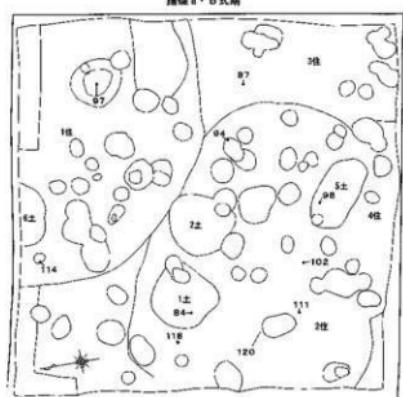
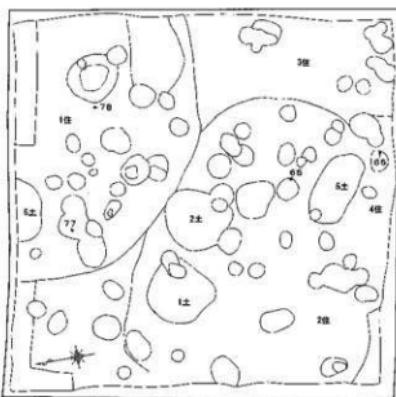
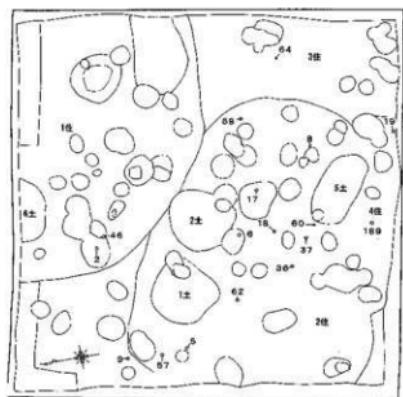
第5章 総括

第1節 遺物について

(1) 土器類

ここでは第14～25回に掲載した遺物の位置づけと文様構成を述べておく。今回発見した土器資料の年代は、縄文時代前期後半の諸磯b式期、諸磯c式期、十三菩提式期、縄文時代中期の井戸尻式期、包含層出土の曾利式期、および古墳時代の所産として報告した。なお、限られた頁数のため、小片資料や位置づけが難しいものについては、類似する文様・調整でまとめた。竪穴住居跡に共伴する縄文時代前期後半に該当するものでは、1～64を諸磯a・b式期、65～169を諸磯c式期、170～182を十三菩提式期とした。調査区出土資料で最も古い段階としては、諸磯a式新段階の様相と捉えられる1・5があり、縄文地文に半截竹管による連続刺突がみられる。諸磯b式古段階としては、半截竹管による円形刺突された2～4がある。諸磯b式中段階としては6～23があり、主に縄文地文に沈線が施され、21～23はボタン状貼付文がある。小片であるが、187・188は浅鉢も出土している。24～49は浮線文があるもので、諸磯b式新段階に位置づいた。10～16にも浮線文が施されているが、連続刺突がみられるため一段階古い位置づけとした。45は小片で磨耗しており、結節浮線文の諸磯c式、または十三菩提式の可能性もある。同じく小片で時期的な位置づけが難しかったもので、50～55の半截竹管による刺突・爪形文(押引文)、56～64の縄文が施されているものが出土している。諸磯c式古段階としては

65～83があり、沈線と半截竹管を押捺した貼付文がみられる。今回出土量が最も多かった諸磯c新段階では、84～166を図化した。84～97はボタン状貼付文に半截竹管の押捺がなく、結節浮線文が施されている。98～120は波状口線を呈すもので、溝巻状のモチーフを結節浮線文で表している。121～149については、浮線文がなく、沈線が施されているものである。121は波状口線を呈す体部下半までの破片資料である。文様は3段構成されており、上段と沈線によって帯状区画した中段には溝巻状モチーフがあり、下段にはボタン状貼付文と沈線で別のモチーフが施されている。また口線の端に沿った竹管刺突がみられる。小片で明確ではないが127～129は、削り取り技法のみられる十三菩提式期にあたる可能性も窺える。130～142は結節沈線文が施されるものである。137は上部に結節沈線文、下部に沈線の綫割線とX状のモチーフによるボタン状貼付文を施しており、136・138もこれと類似する資料と思われる。なお、横位の沈線には直線状と連続する羽状のものがみられる他、貼付文があるものとないものがみられた。160～162は、器面を指頭ナデされたもので、162の底部には網代痕がみられた。163～166は棒状の貼付文があるもので、胎土が鈍い黄褐色であり、他の資料とは異質な感がある。諸磯c式期では、浅鉢は190～196があり、192～195是有孔、196は円形の刺突がみられる。199・200は小片であるが、高台状の貼付がみられ、同時期の浅鉢として位置づけられるものとした。167～182は十三菩提式期と



第25図 時期・文様構成別 土器出土状況

したもので、いずれも小片である。167・175・176は口縁部に隆起状の貼付文とキャビラ文（細い竹管を連ねた押捺沈線文）がある。170～173および177・178には粘土の削り取り技法がみられ、前者は連続した押捺沈線文、後者は平行沈線が施されている。179・180は口唇部に貼付け文、口縁部の三角交差刺突状の粘土削り取り、押捺沈線文がみられる。181・182は三角交差刺突状の粘土削り取りが小さく、口縁部下に繩文が施されている。197は直線的に立ち上がる口縁で、外側から2箇所穿孔している。198は堆で、既述の236～238と同じ古墳期の遺物であり、上層からの混入と考えている。202～211は土製円盤で、いずれも深鉢胴部を使用している。側面には擦痕があり、使用痕というより整形による痕跡と考えられる。212～221は縄文時代中期の資料である。既述の上坑出土遺物以外は曾利期の包含層出土の遺物で、215が曾利Ⅰ期、216～221が曾利Ⅱ期、曾利Ⅳ期に位置づけられる。また出土状況は不明であったが、縄文時代中期の上構3点（224～226）、諸磯b式期の帆面把手（227）や、十三菩提式期と思われる結節沈線文がある把手などが出土した。228～238は、小型土器及び古墳時代の遺物である。229は沈線と口縁部に貼付文のような隆起がみられる。201・231～235は、指頭圧痕、指頭ナデなど、手づくね技法で制作されている。201や235などは古墳期の所産と推定できるが、年代ははっきりしない。その他、不明土製品1点と、内面に炭化物が付着した土器片が出土し、図化しなかつたが写真とともに報告しておく。

（2）石器類

石器は、石鎌・石錐・スクレイパー・石匙・石皿・磨石・石斧が出土した。小型品の石材は8の石鎌がチャート、それ以外は黒曜石であった。車居遺跡2次調査で出土した石鎌同様、やや歪な形の石鎌（16・17・20・21）が出土している。剥片も多く検出されており、その中に5・14・19などの使用痕がある剥片や、石錐を制作する過程で出来た剥片に加工痕もしくは使用痕がみられる4などが出土している。7の石錐は他と異なったやや溝た暗緑色であり、蓼科冷山群所産の石材と推定される。石皿に使用した石材は、25は安山岩、26は玄武岩質安山岩、それ以外は玄武岩であった。なお、駿河堂遺跡群から出土した資料と同様に、使用される玄武岩は遺跡周辺では産出されないことから、富士山に由来した産出地から搬入された可能性があり、今後石皿の生産・流通・消費などを検討する上で注目されるものと考える。

第2節 遺構の年代について

遺構の重複関係と第6・7・26回に示した出土遺物の

分布から、年代について触れておく。ここでは出土遺物から、諸磯b式期で1段階、諸磯c式期は少なくとも古段階で1段階、新段階は浮線文と沈線の変化で2段階、十三菩提式期で1段階の5段階の時期を推定した。諸磯c式古段階、十三菩提式期は明確でなかったが、分布傾向から各堅穴住居跡の年代を位置づけてみた。まず、諸磯b式期は、出土量が少なく1・2号住の範囲に分布していたが、床面より高いレベル（第6・7回参照）に多くみられた。2号住は別遺構（4号住）との重複があり、床面のレベルからの出土が確認できることから、この段階の遺構と想定した。諸磯c式新段階は、点数は少ないが、1号住でピットと炉上面で浮線文が施された97が出土しており、同遺構をこの段階と想定した。2号住と4号住が重複する部分には、結節沈線文が施された遺物のまとまった分布がみられ、遺構範囲は明確ではないが4号住をこの段階とした。なお、4号住については造り替え・拡張からさらに時間差を設ければならない可能性がある。3号住については、出土した162の年代をあてたいが、遺構範囲が明確ではなく別遺構の可能性も窺えるため、年代は断定し難い。その他、傾斜面で縄文時代中期には墓域、土器捨て場となった立地環境から、別地点からの流入を検討する必要がある。今後の課題として周辺の調査による資料・情報の増加を持ち、改めて検討の機会を得たい。

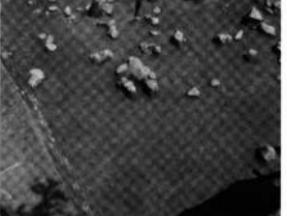
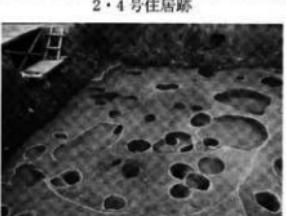
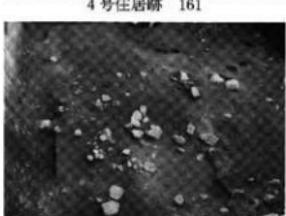
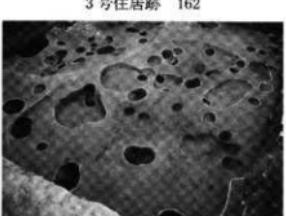
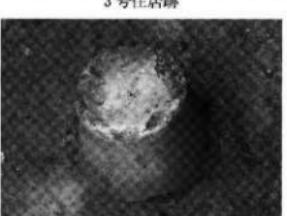
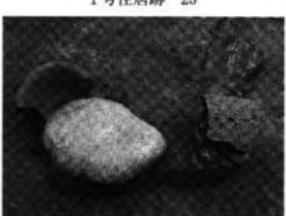
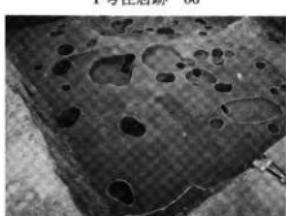
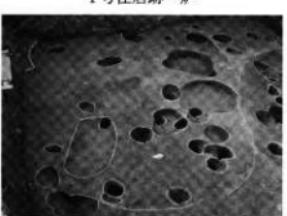
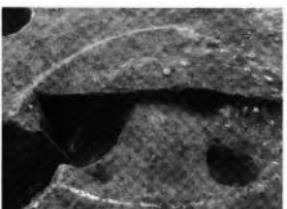
おわりに

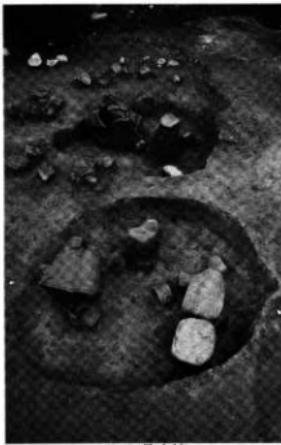
今回の調査成果として、古墳時代～奈良・平安時代の集落跡と周知されていた地域において、縄文時代前期後半の集落遺構の存在を確認し、さらには縄文中期に墓域・土器捨て場となった上地様相の変遷を捉えることができた。調査範囲が狭小であったため、今後の資料増加によっては新たな見解となる可能性は十分考えられるが、本報告が今後の周辺調査の糧となり、地域の歴史の解明を進める契機となれば幸いである。

末筆となったが、調査・報告書作成においてはKDDI株式会社、㈱熊谷組、笛吹市教育委員会、その他多くの方にご協力いただいた。心より感謝を申し上げ、結びとしたい。

参考文献

- 名田敏雄 1989 「諸磯式土器群」 縄文土器大観 1草創期 幕開 前原 小林道雄編 小学館
藤谷克彦 1989 「北白川下原式土器群」 縄文土器大観 1草創期 幕開 藤谷 小林道雄編
小学校
長沢安弘 1989 「左島山遺跡 水谷塚北邊跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第45集 山梨県教育委員会
新津健・米田親也 1994 「天神遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第87集 山梨県教育委員会
小野正義 1999 「山梨県」 資料集2 始祖・古代2 古奇（遺跡・遺物）
山梨県史編さん委員会
今村智哉 2000 「諸磯b式の正しい編年」 土壙考古 第25号 土壙考古学研究会
今村智哉 2001 「十三菩提式前半の系統關係」 土壙考古 第25号 土壙考古学研究会
飯原信二 2000 「諸磯式土器」 斎宮純文土器 小林道雄編 新潟県文土器研究会作業委員会





1・2号土坑



1号土坑



2号土坑



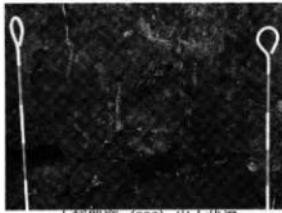
1号土坑 212出土状況



2号土坑 213・214出土状況



5号土坑



土師器瓶(238)出土状況



調査前



調査風景



写真測量風景



調査区近景



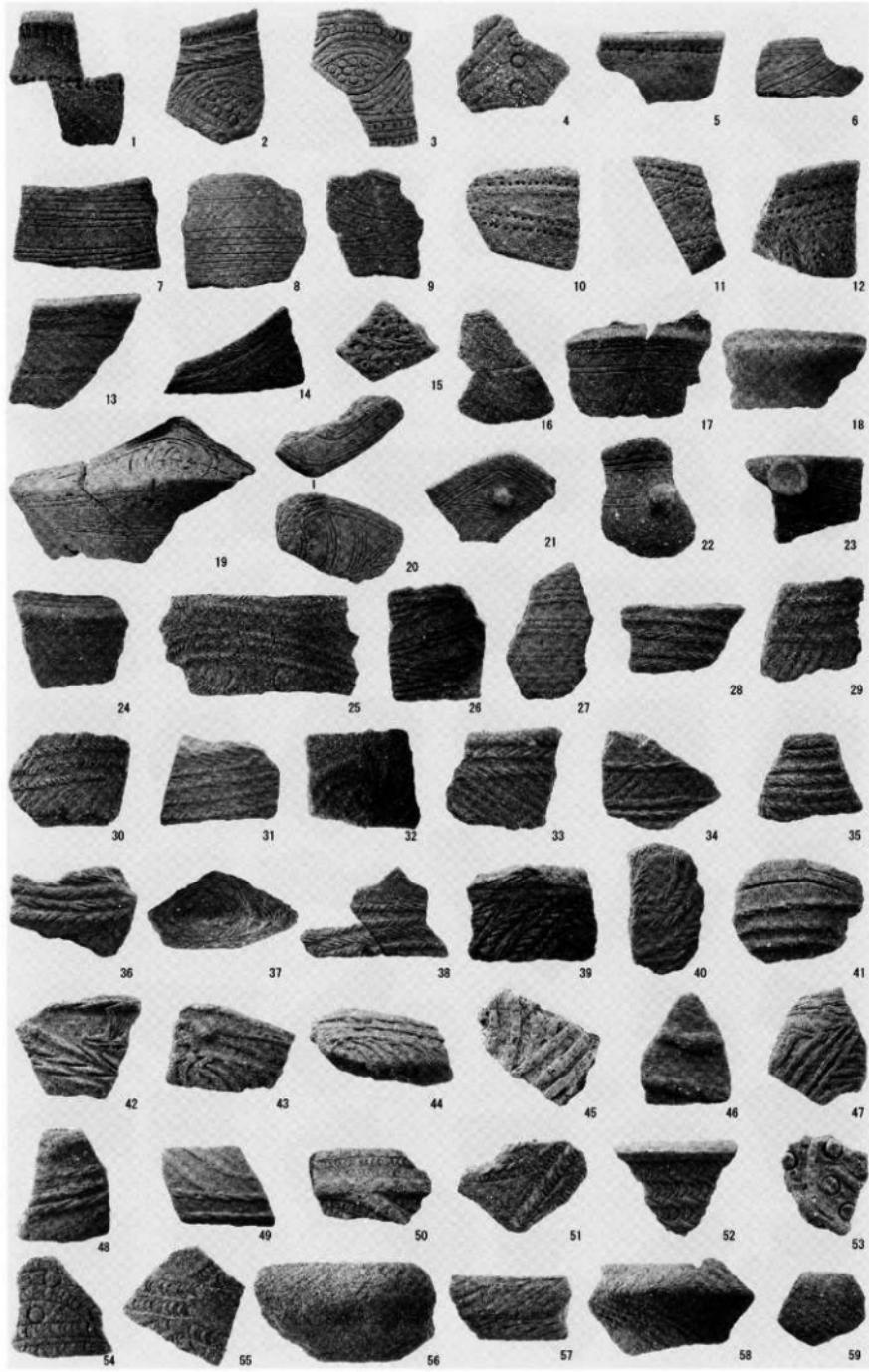
調査風景

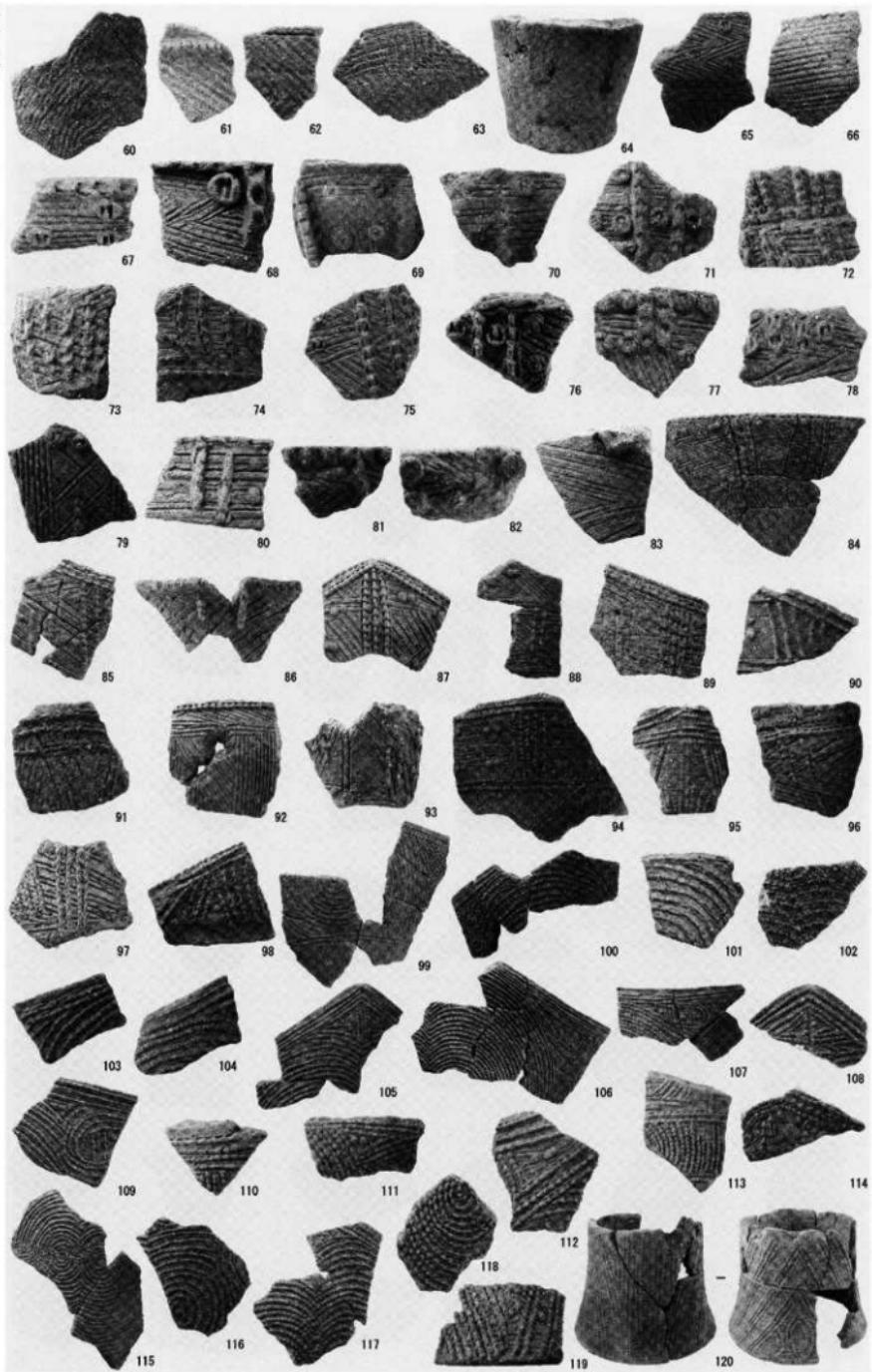


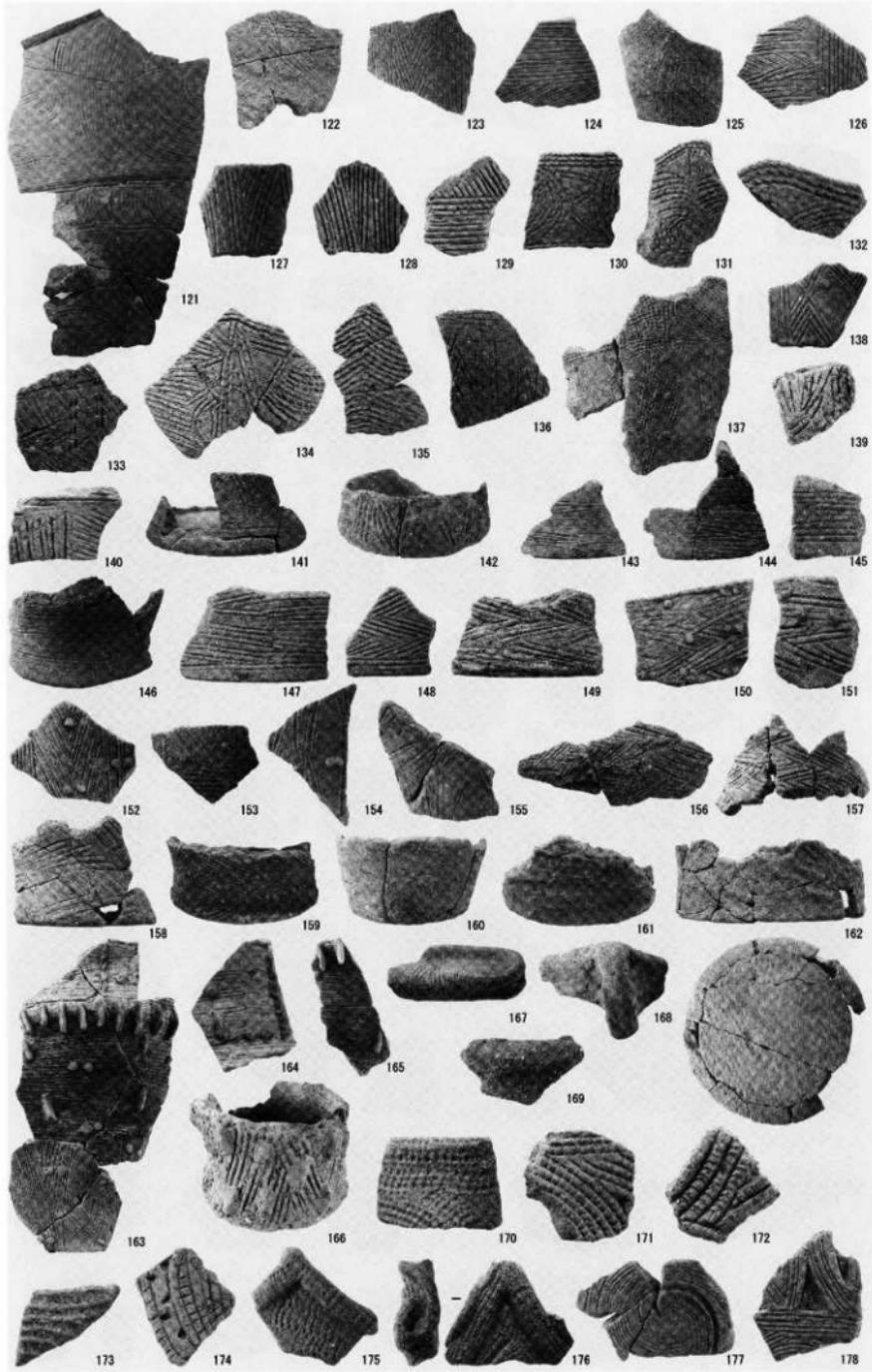
調査区全景

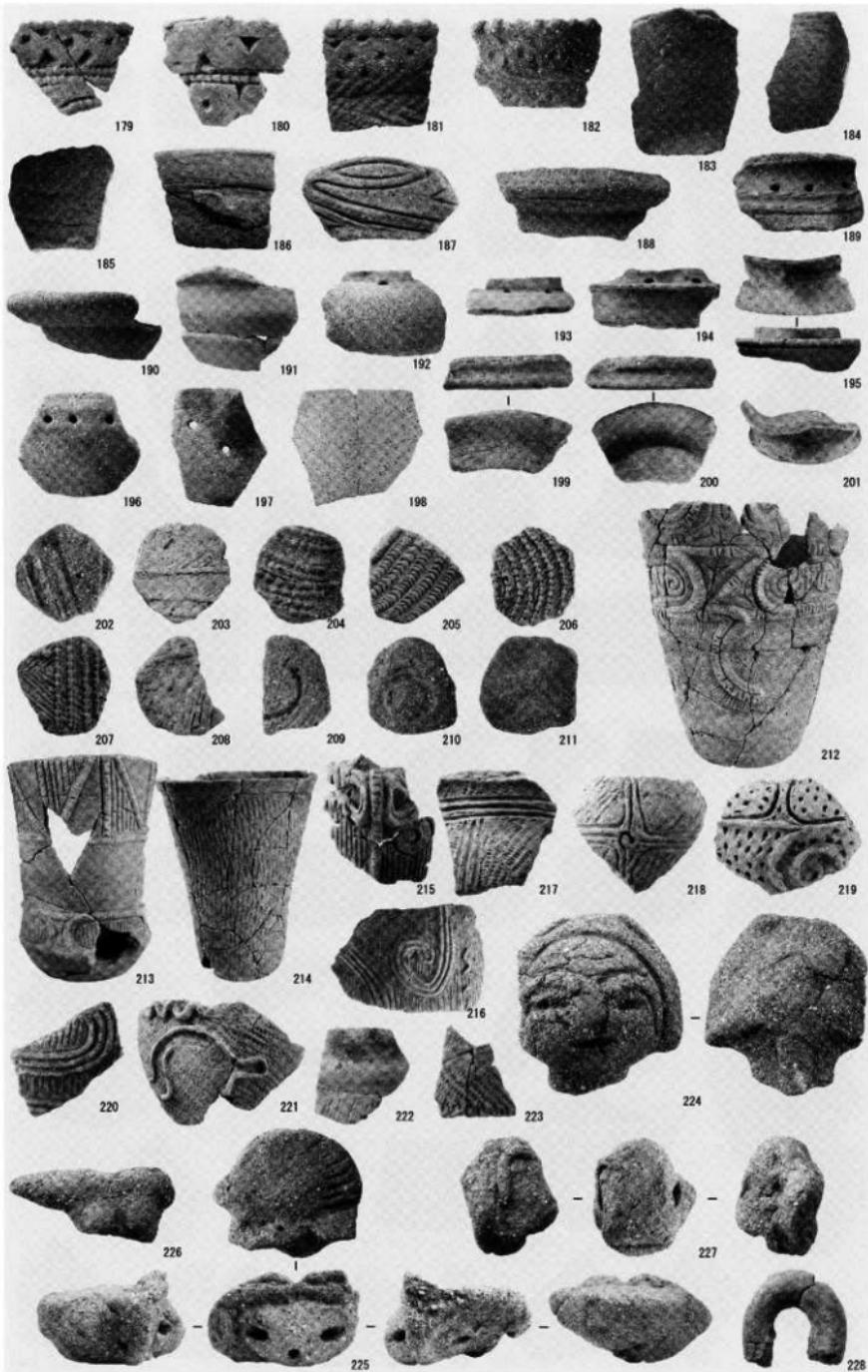


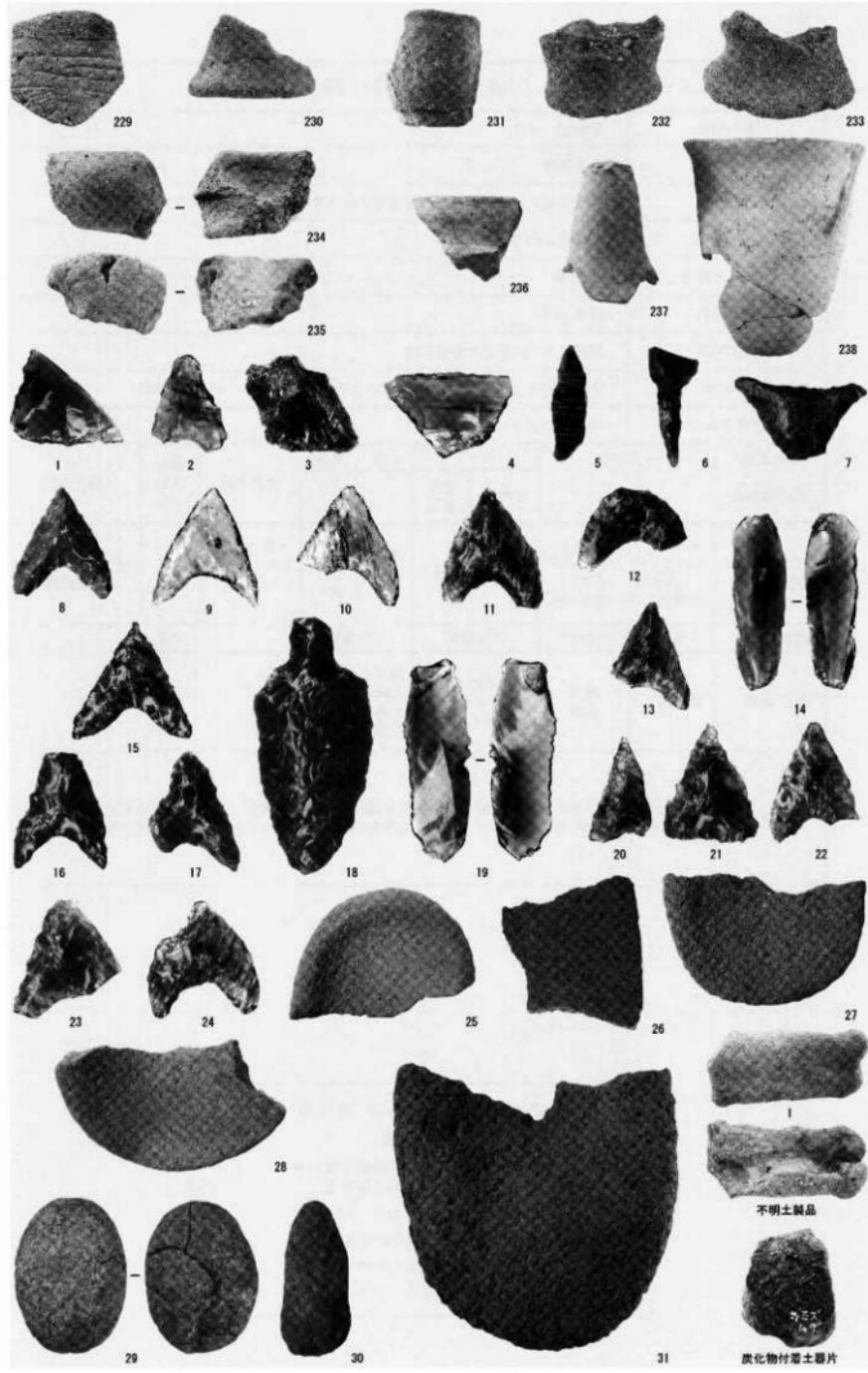
調査風景











報告書抄録								
ふりがな	しみずいせき							
書名	清水遺跡							
副書名	携帯電話アンテナ基地局建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	笛吹市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第10集							
編著者名	望月秀和							
編集機関	財團法人 山梨文化財研究所							
所在地	〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566 TEL 055-263-6441							
発行年月日	2009年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 度	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
しみず いせき 清水 遺跡	ふえみさし いらのみやちょう もとみやこづか あざ しみず 笛吹市 宮町 本都塚字 清水186	19201	16	35° 38' 59"	138° 41' 26"	平成20年 8月18日 ~9月4日	64	携帯電話アンテナ 基地局建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
清水 遺跡	集落跡	縄文 占墳	住居跡4軒 ピット65基 土坑4基	縄文土器 土師器 上製品 石器など				
要約	縄文時代前期後半期の堅穴住居跡や縄文時代中期の土坑墓等を検出した。御手洗川流域においても同時期の遺構・遺物の存在が明らかとなり、集落変遷を検討していく上で貴重な資料が得られた。							

笛吹市文化財調査報告書 第10集
清水遺跡
携帯電話アンテナ基地局建設事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書
発行日 平成21年(2009)3月31日
編集 (財)山梨文化財研究所
発行 (財)山梨文化財研究所
印刷 (株)帝京サービス

The Report of
Archaeological Research of SHIMIZU Site

An Archaeological Rescue Survey prior to the Construction of
Mobile Phone Transmission Site

March,2009

Fuefuki City Board of Education
YAMANASHI RESEARCH INSTITUTE OF
CULTUAL PROPERTIES